

鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔サービス提供事業所調査〕

令和5年3月
鈴鹿亀山地区広域連合

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	配布・回収数	1
4	報告書の見方(注意事項)	1
II	調査結果	2
1	事業所の状況について	2
2	介護サービスについて	4
3	介護人材について	24
4	施設・居住系の事業所における入退居の状況について	30
5	生活支援サービスについて	35
6	権利擁護について	38
7	地域包括ケアについて	42

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和6年度から実施する「第9期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ①調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域
- ②調査対象者 鈴鹿亀山地区広域連合管内の介護保険サービスの提供事業所
- ③調査期間 令和4年11月(調査基準日は令和4年11月1日)
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
381	359	94.2%	—	359	94.2%

4 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(N数)を分母として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(N数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 令和元年度に実施した前回調査(第8期介護保険事業計画の策定にかかる調査)において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第8期調査」と表示しています。
- ⑤ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

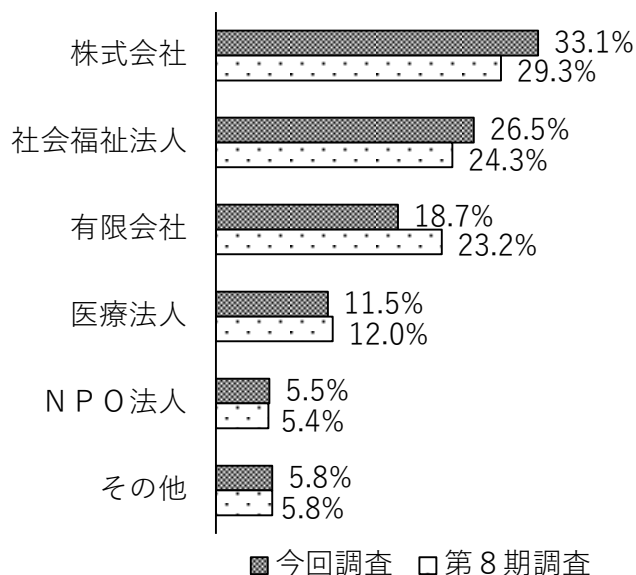
II 調査結果

1 事業所の状況について

問1 貴事業所の経営主体はどれですか。(複数選択可)【N=347、276(第8期調査)】

経営主体については、「株式会社」が33.1%と最も高く、次いで「社会福祉法人」(26.5%)、「有限会社」(18.7%)と続いています。

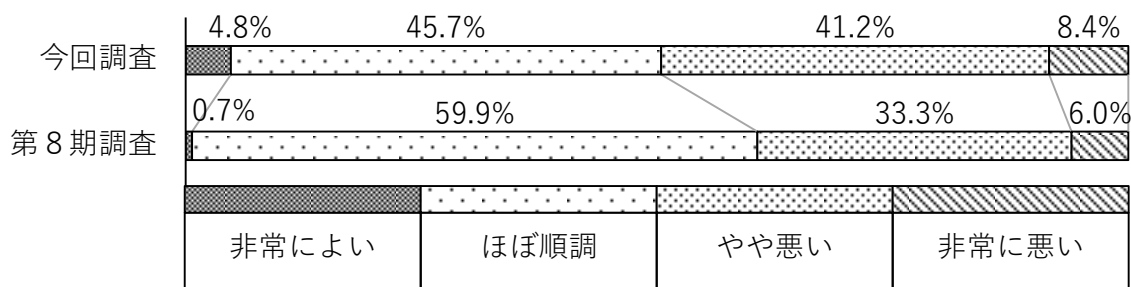
第8期調査と比較すると、「株式会社」が3.8ポイント上昇する一方、「有限会社」は4.5ポイント低下しています。



問2 貴事業所の運営（経営）状況はいかがですか。(1つを選択)【N=335、267(第8期調査)】

事業所の運営状況については、「ほぼ順調」が45.7%と最も高く、「非常によい」(4.8%)を合わせると『経営状況はよい』は50.5%を占めています。一方、「やや悪い」(41.2%)と「非常に悪い」(8.4%)を合わせた『経営状況は悪い』は49.6%を占めています。

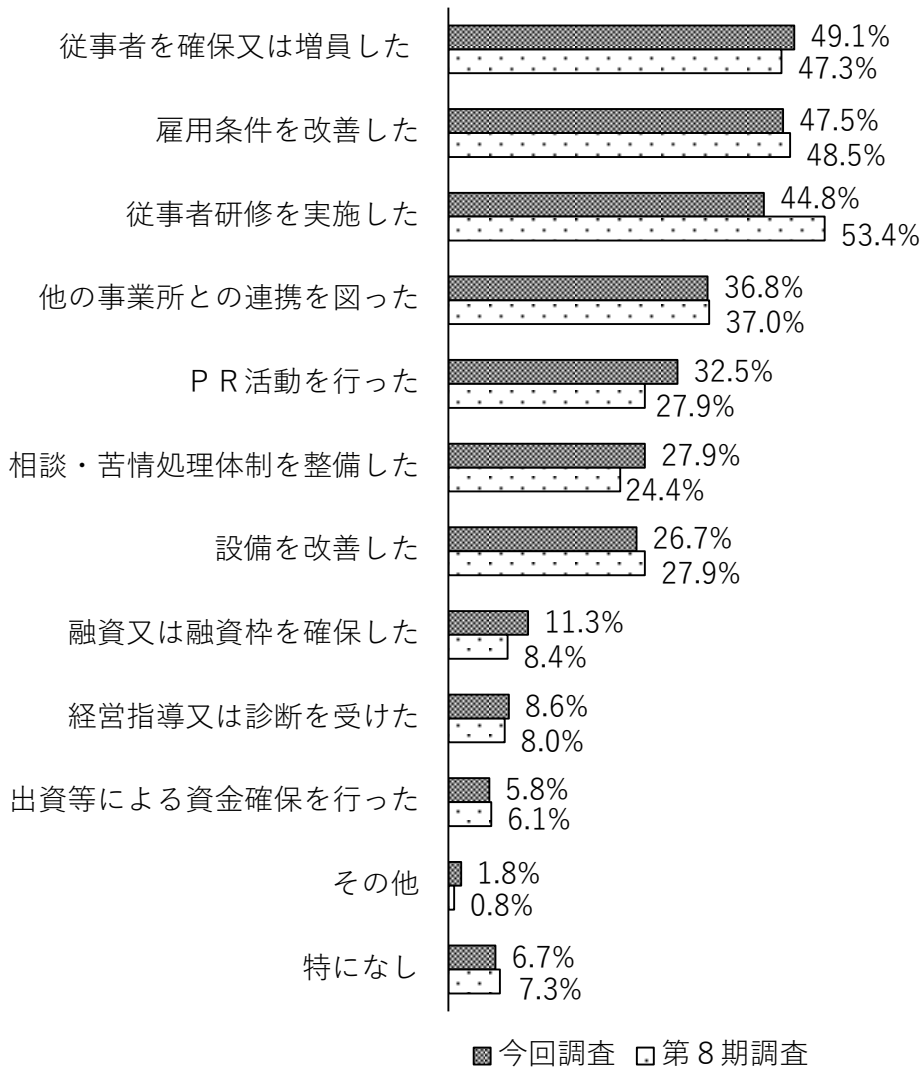
第8期調査と比較すると、『経営状況はよい』が10.1ポイント低下しています。



問3 介護保険制度が導入されてから現在までに、以下の経営改善等に関することを行いましたか。
(複数選択可) 【N=326、262(第8期調査)】

経営改善等に関することの実施状況については、「従事者を確保又は増員した」が49.1%と最も高く、次いで「雇用条件を改善した」(47.5%)、「従事者研修を実施した」(44.8%)と続いています。

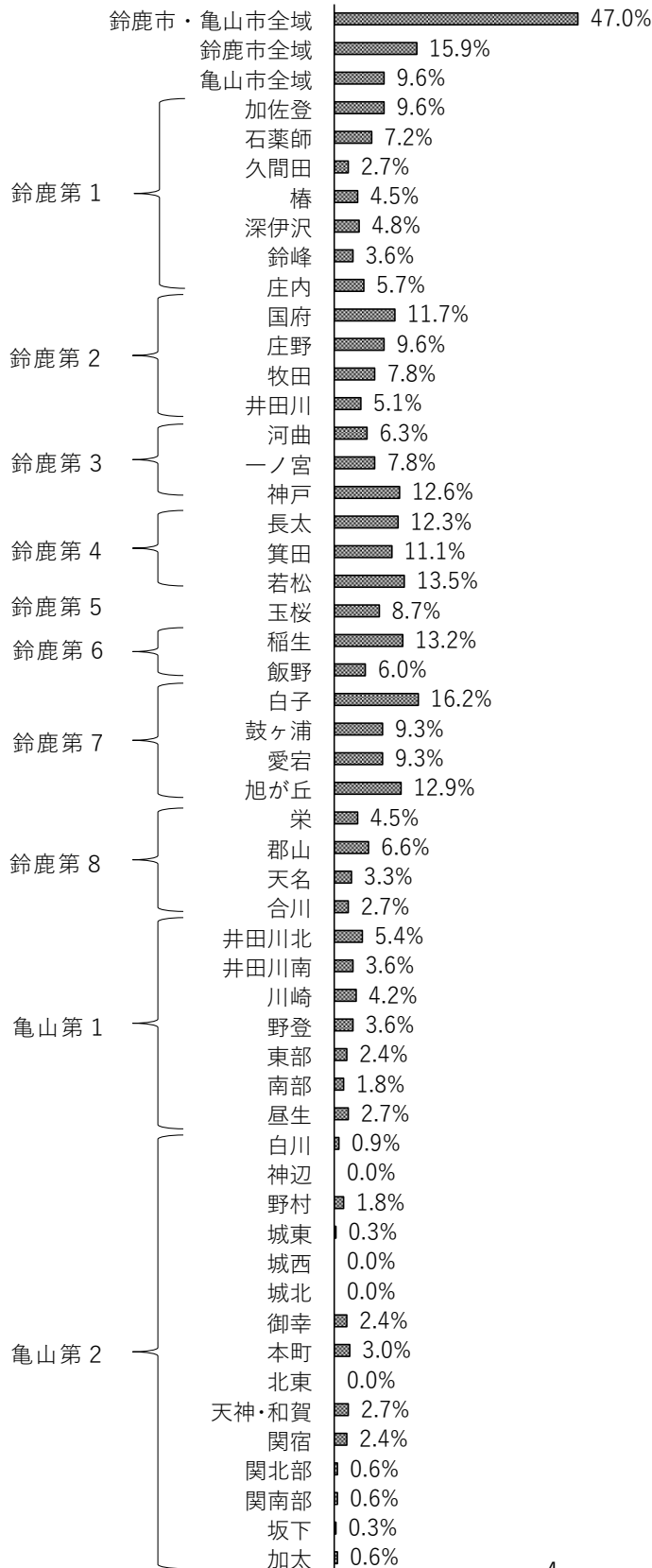
第8期調査と比較すると、「PR活動を行った」が4.6ポイント、「相談・苦情処理体制を整備した」が3.5ポイント上昇する一方、「従事者研修を実施した」は8.6ポイント低下しています。



2 介護サービスについて

問4 貴事業所が現在、サービスを提供している地域をお答えください。（複数選択可）【N=334】

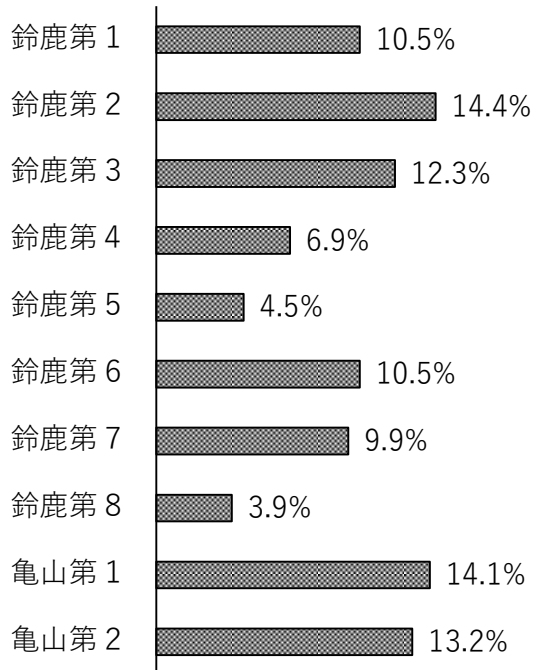
サービス提供地域については、「鈴鹿市・亀山市全域」が47.0%と最も高く、次いで「白子」(16.2%)、「鈴鹿市全域」(15.9%)と続いています。



問5 貴事業所の所在地をお選びください。(1つを選択、区域は問4を参考にしてください)

【N=334】

事業所の所在地については、「鈴鹿第2」が14.4%と最も高く、次いで「亀山第1」(14.1%)、「亀山第2」(13.2%)、「鈴鹿第3」(12.3%)と続いています。

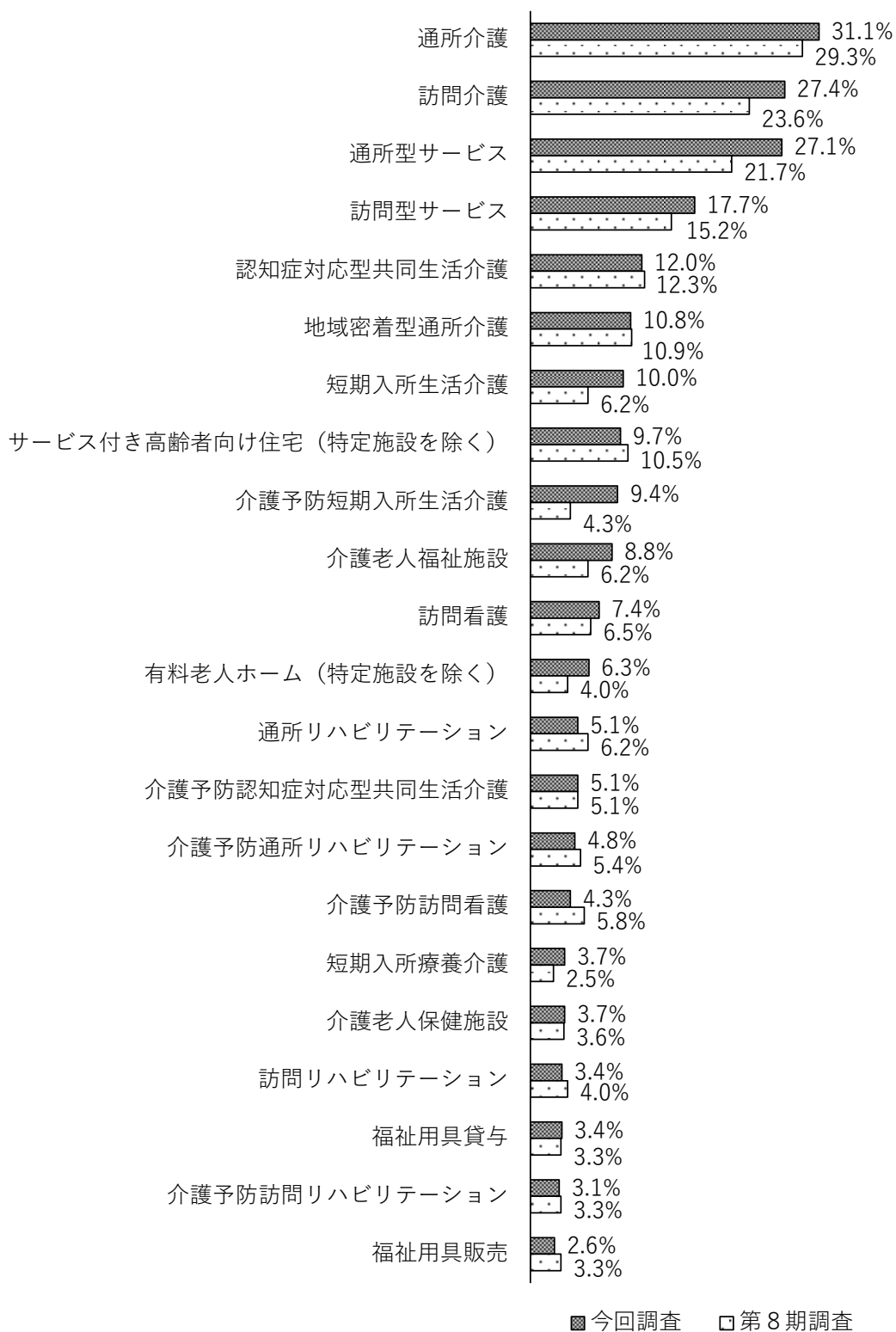


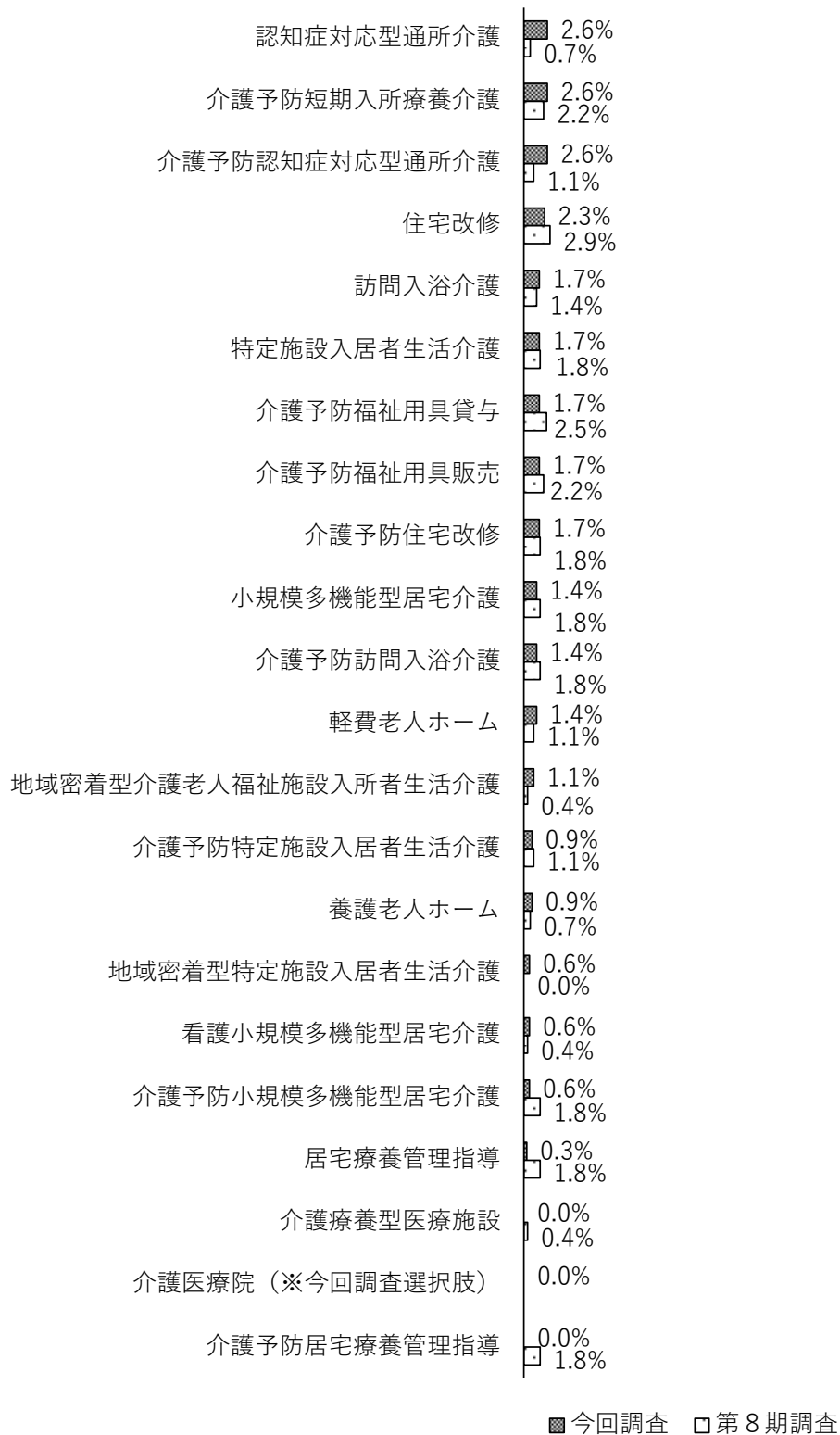
問6 貴事業所において実施されているサービスはどれですか。(複数選択可)

【N=351、276(第8期調査)】

事業所が実施しているサービスについては、「通所介護」が31.1%と最も高く、次いで「訪問介護」(27.4%)、「通所型サービス」(27.1%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「通所型サービス」が5.4ポイント、「介護予防短期入所生活介護」が5.1ポイント、「訪問介護」と「短期入所生活介護」がそれぞれ3.8ポイント上昇しています。



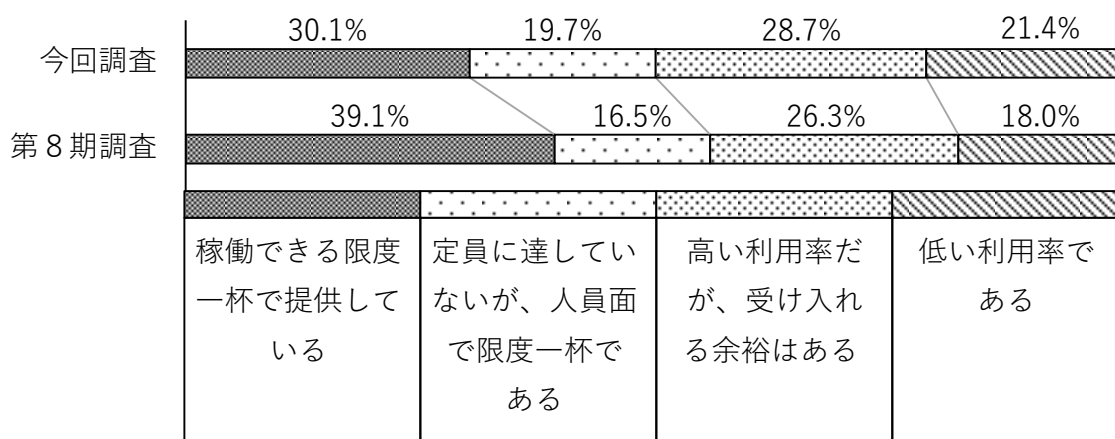


問7 貴事業所におけるサービス提供はどのような状況ですか。(1つを選択)

【N=345、266(第8期調査)】

事業所におけるサービス提供状況については、「稼働できる限度一杯で提供している」が30.1%と最も高く、「定員に達していないが、人員面で限度一杯である」は19.7%となっており、約半数が受け入れ限度一杯の状況となっています。また、「高い利用率だが、受け入れる余裕はある」は28.7%、「低い利用率である」は21.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「低い利用率である」が3.4ポイント、「定員に達していないが、人員面で限度一杯である」が3.2ポイント、「高い利用率だが、受け入れる余裕はある」が2.4ポイント上昇する一方、「稼働できる限度一杯で提供している」が9.0ポイント低下しています。

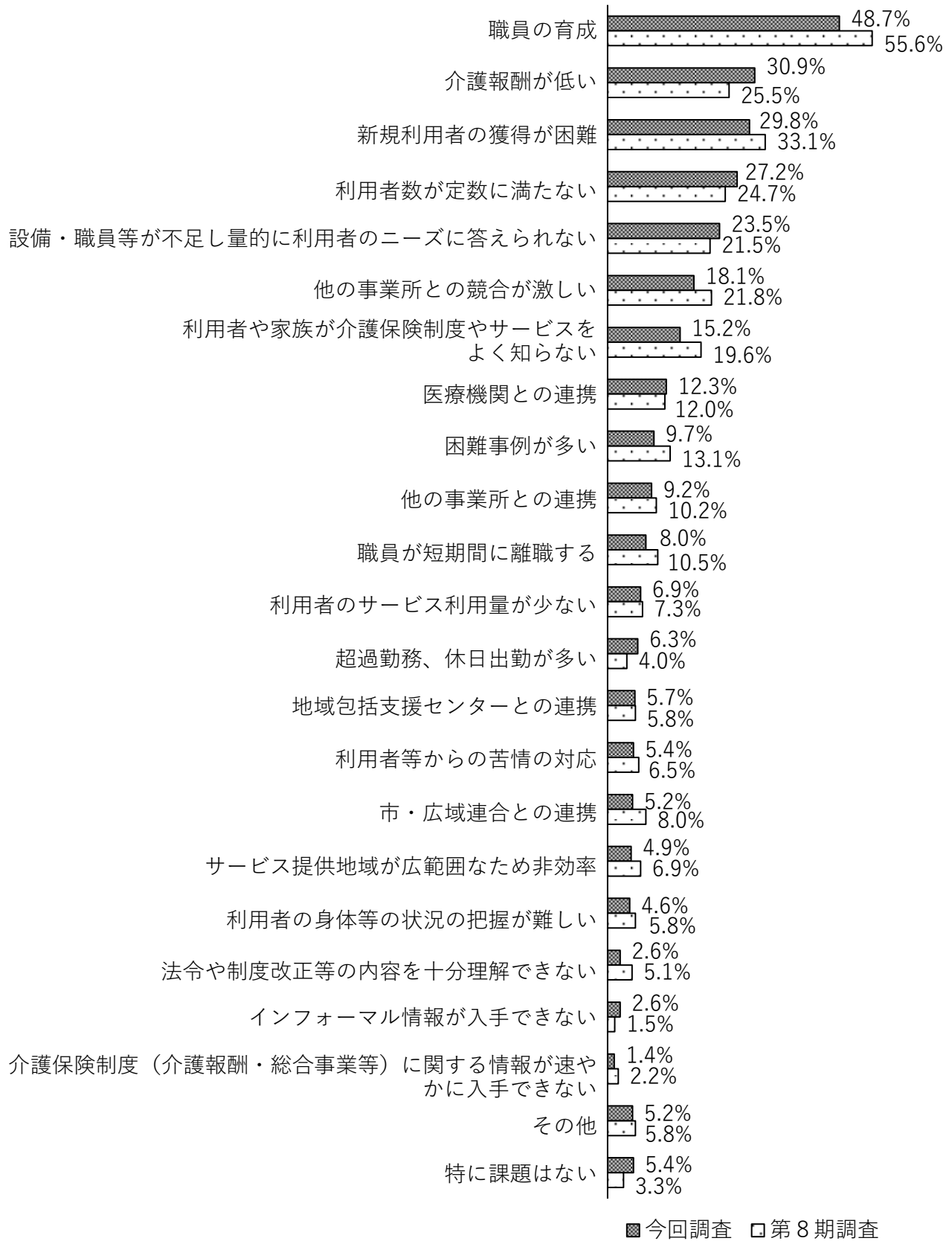


問8 サービスについて、事業を運営する上での課題は何ですか。(複数選択可)

【N=349、275(第8期調査)】

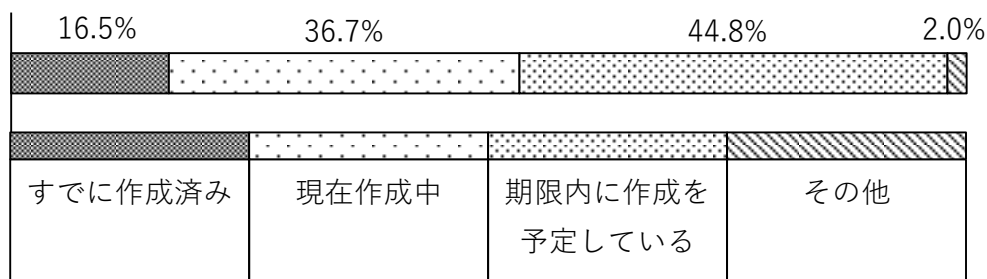
事業を運営する上での課題については、「職員の育成」が48.7%と最も高く、次いで「介護報酬が低い」(30.9%)、「新規利用者の獲得が困難」(29.8%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「介護報酬が低い」が5.4ポイント上昇する一方、「職員の育成」は6.9ポイント低下しています。



問9 災害や感染症の発生時を想定した業務継続計画（BCP）を令和5年度中に作成することになっています。貴事業所では、作成に取り組まれていますか。（1つを選択）【N=346】

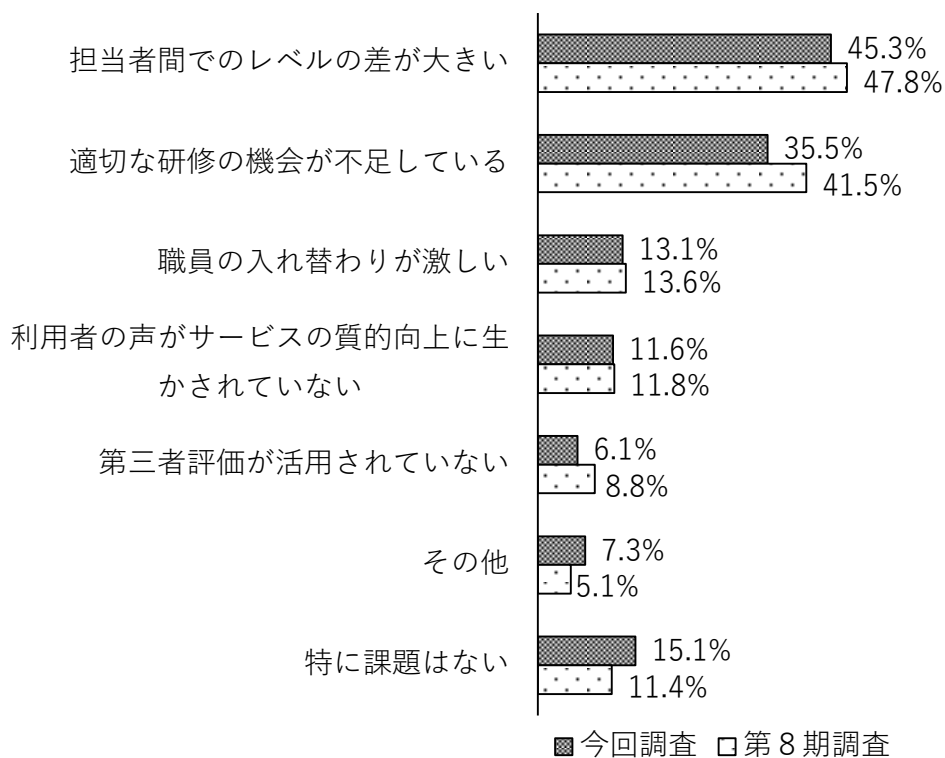
業務継続計画（BCP）の作成状況については、「期限内に作成を予定している」が44.8%と最も高く、次いで「現在作成中」が36.7%、「すでに作成済み」が16.5%となっています。



問10 貴事業所において、サービスの質的向上を図る上での課題は何だと思いますか。（複数選択可）【N=344、272(第8期調査)】

サービスの質的向上を図るうえでの課題については、「担当者間でのレベルの差が大きい」が45.3%と最も高く、次いで「適切な研修の機会が不足している」(35.5%)、「職員の入れ替わりが激しい」(13.1%)と続いています。一方、「特に課題はない」は15.1%となっています。

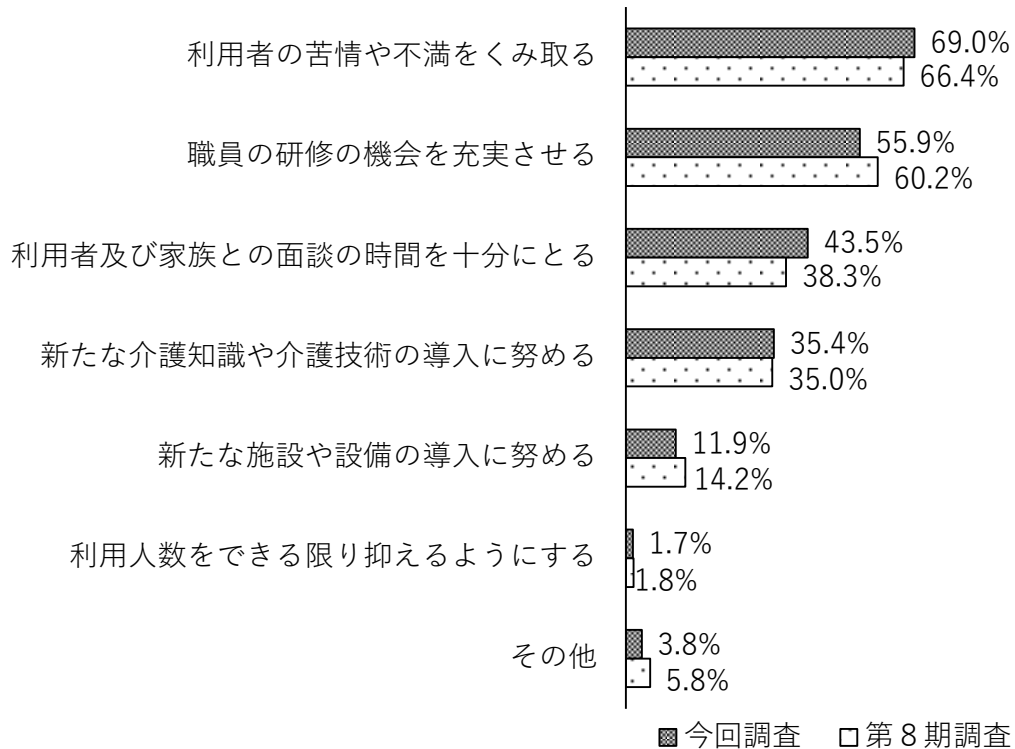
第8期調査と比較すると、「特に課題はない」が3.7ポイント上昇する一方、「適切な研修の機会が不足している」は6.0ポイント低下しています。



問11 サービスの質を高めるために貴事業所が行っていることはどんなことですか。（複数選択可）
【N=345、274(第8期調査)】

サービスの質を高めるために実施していることについては、「利用者の苦情や不満をくみ取る」が69.0%と最も高く、次いで「職員の研修の機会を充実させる」(55.9%)、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」(43.5%)と続いています。

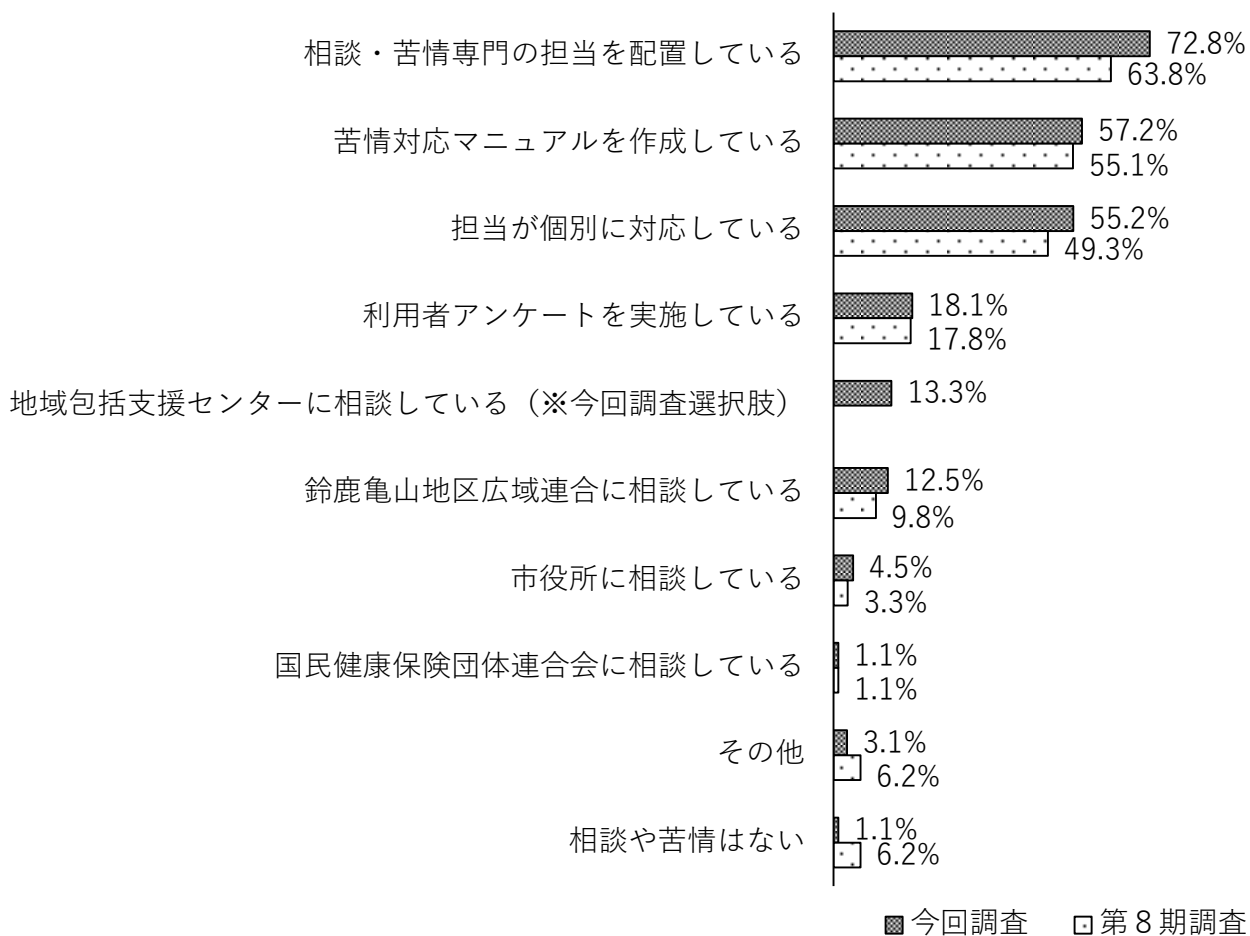
第8期調査と比較すると、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」が5.2ポイント上昇する一方、「職員の研修の機会を充実させる」は4.3ポイント低下しています。



問12 貴事業所では、利用者や家族からの相談や苦情についてどのように対応していますか。
 (複数選択可) 【N=353、276(第8期調査)】

利用者や家族からの相談や苦情への対応については、「相談・苦情専門の担当を配置している」が72.8%と最も高く、次いで「苦情対応マニュアルを作成している」(57.2%)、「担当が個別に対応している」(55.2%)と続いています。一方、「相談や苦情はない」は僅か1.1%となっています。

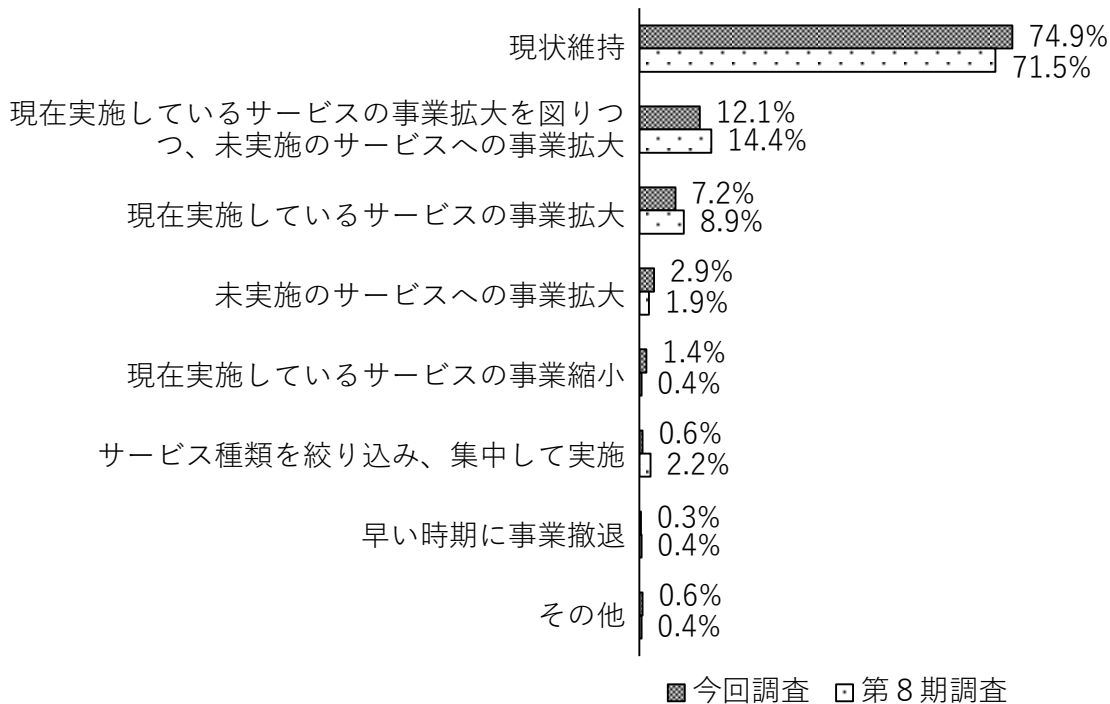
第8期調査と比較すると、「相談・苦情専門の担当を配置している」が9.0ポイント、「担当が個別に対応している」が5.9ポイント上昇しています。



問13 貴事業所は、今後、どのようにサービスを展開していこうとお考えですか。（1つを選択）
【N=346、270(第8期調査)】

今後のサービス展開については、「現状維持」が74.9%を占めています。「現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大」は12.1%、「現在実施しているサービスの事業拡大」は7.2%、「未実施のサービスへの事業拡大」は2.9%となっています。

第8期調査と比較すると、「現状維持」が3.4ポイント上昇する一方、「現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大」は2.3ポイント低下しています。

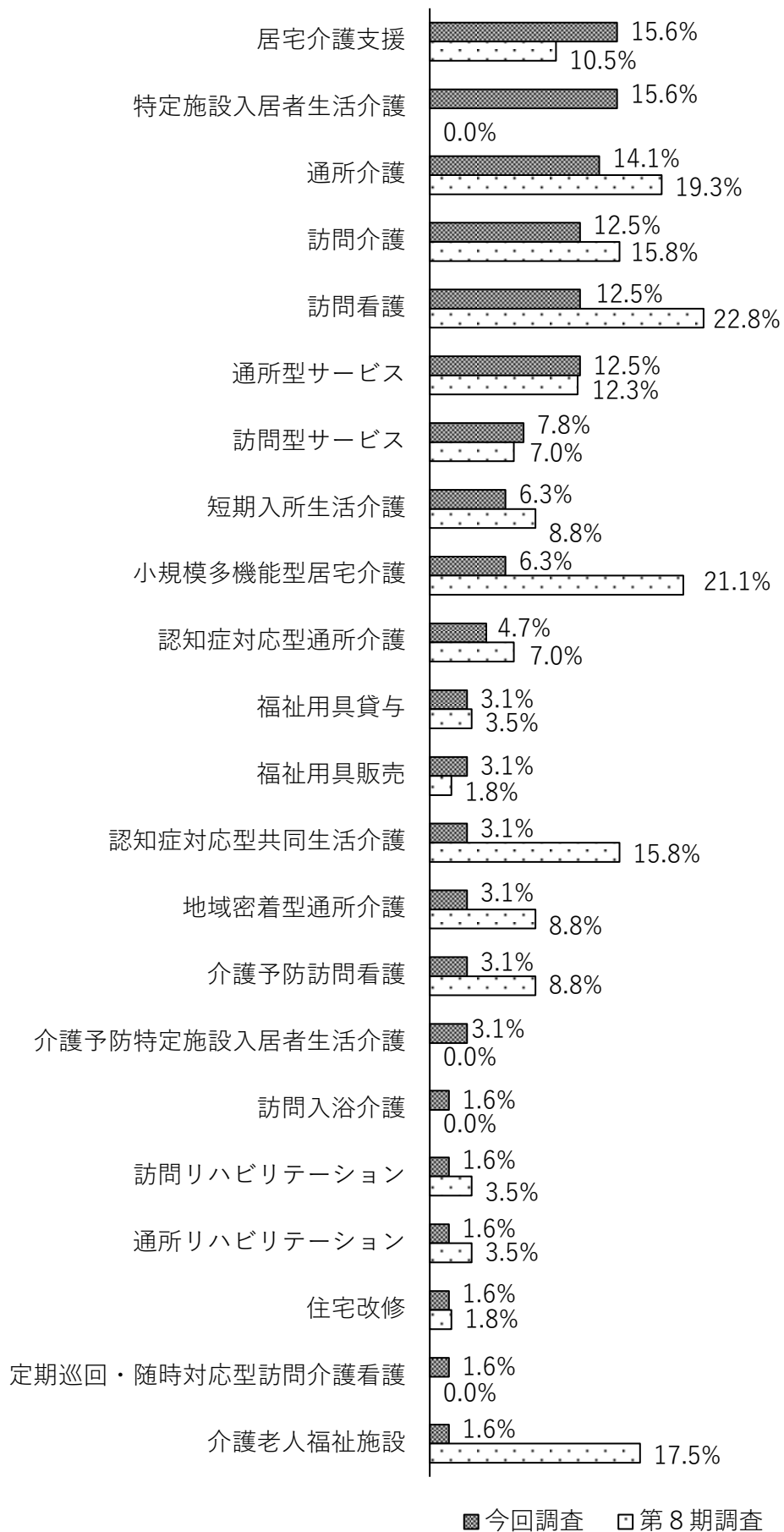


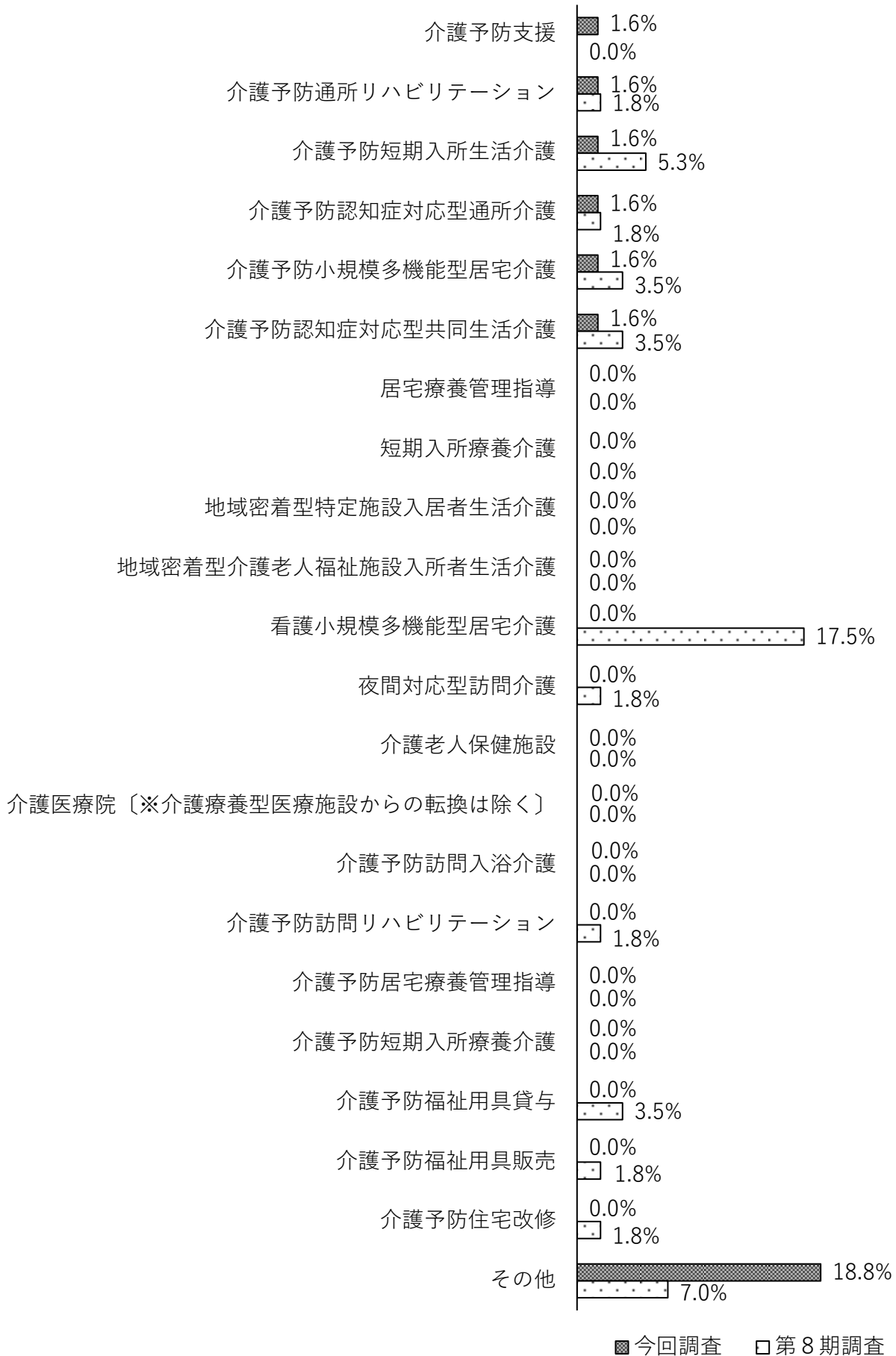
問13で「現在実施しているサービスの事業拡大」「現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大」「未実施のサービスへの事業拡大」と回答した事業所にお伺いします。

問13-② 貴事業所において今後、参入・拡充を考えている介護保険サービスはありますか。
(複数選択可、施設サービスについては定員も記入) 【N=64、57(第8期調査)】

今後、参入・拡充を考えている介護保険サービスについては、「居宅介護支援」と「特定施設入居者生活介護」が15.6%と最も高く、次いで「通所介護」(14.1%)、「訪問介護」「訪問看護」「通所型サービス」(12.5%)と続いています。

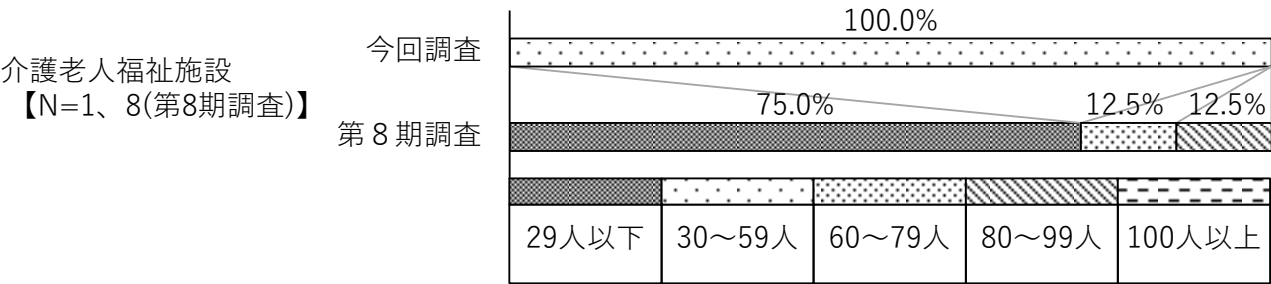
第8期調査と比較すると、「特定施設入居者生活介護」が15.6ポイント、「その他」が11.8ポイント上昇しています。一方、「看護小規模多機能型居宅介護」が17.5ポイント、「介護老人福祉施設」が15.9ポイント、「小規模多機能型居宅介護」が14.8ポイント、「認知症対応型共同生活介護」が12.7ポイント、「訪問看護」が10.3ポイント低下しています。





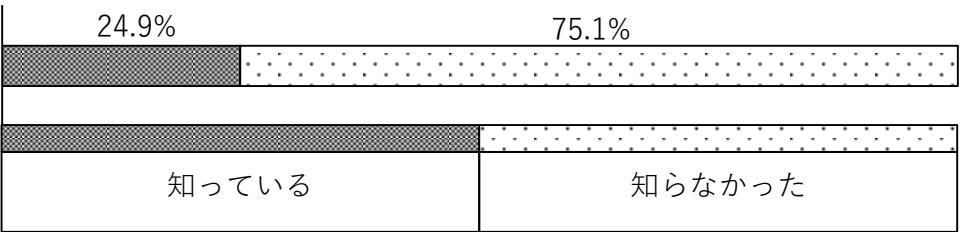
○今後、参入・拡充を考えている施設サービスの定員

今後、参入・拡充を考えている施設サービスの定員については、回答のあった「介護老人福祉施設」は「30～59人」が100%（1件）となっています。



問14 鈴鹿亀山地区広域連合では、看護小規模多機能型居宅介護サービスと定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスに対し、インセンティブとして令和4年4月から独自報酬の加算を設定していますが、このことはご存知ですか。（1つを選択）【N=354】

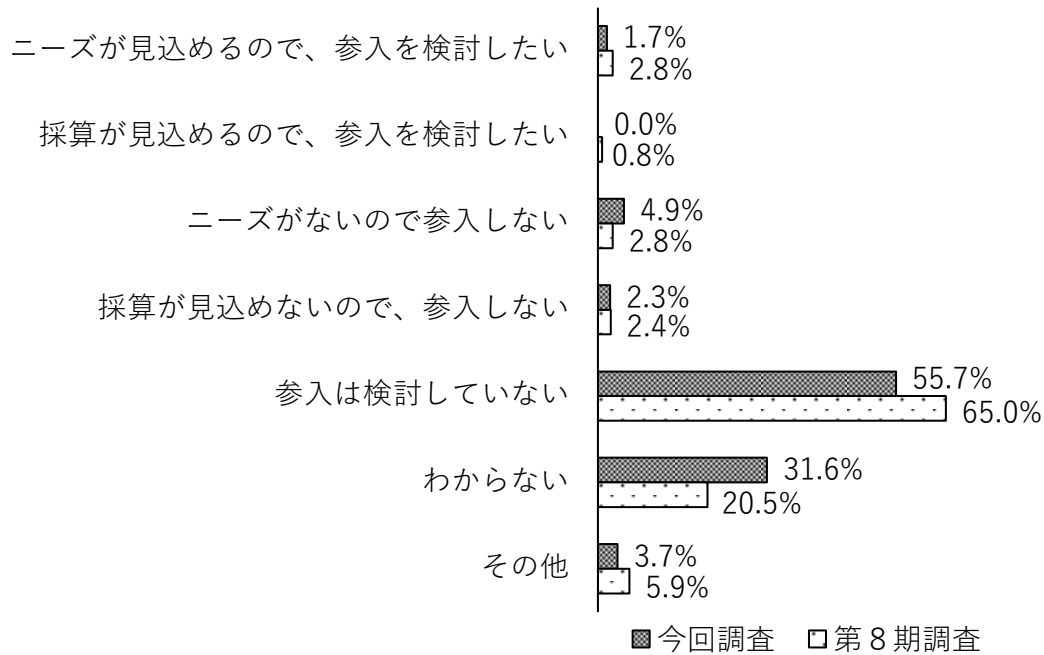
独自報酬の加算設定の認知状況については、「知っている」が24.9%、「知らない」が75.1%となっています。



問15 看護小規模多機能型居宅介護サービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（1つを選択）【N=348、254(第8期調査)】

看護小規模多機能型居宅介護への参入については、「参入は検討していない」が55.7%を占めています。「ニーズが見込めるので、参入を検討したい」は1.7%、「採算が見込めるので、参入を検討したい」はありませんでした。

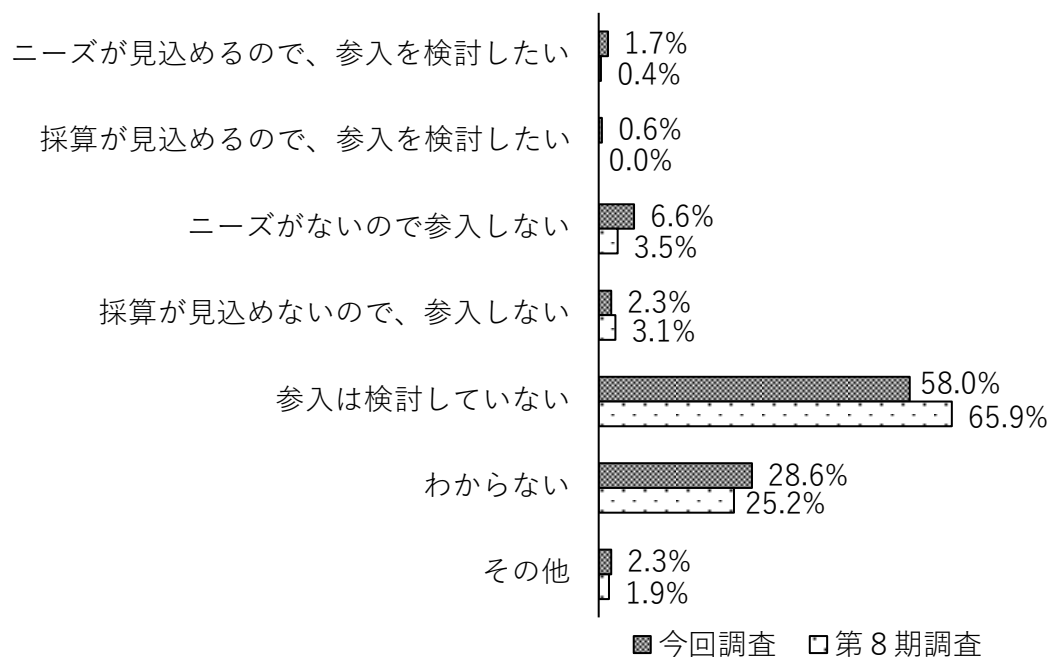
第8期調査と比較すると、「わからない」が11.1ポイント、「ニーズがないので参入しない」が2.1ポイント上昇しています。



問16 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（1つを選択）【N=350、258(第8期調査)】

定期巡回・随時対応型訪問介護看護への参入については、「参入は検討していない」が58.0%を占めています。「ニーズが見込めるので、参入を検討したい」は1.7%、「採算が見込めるので、参入を検討したい」は0.6%となっています。

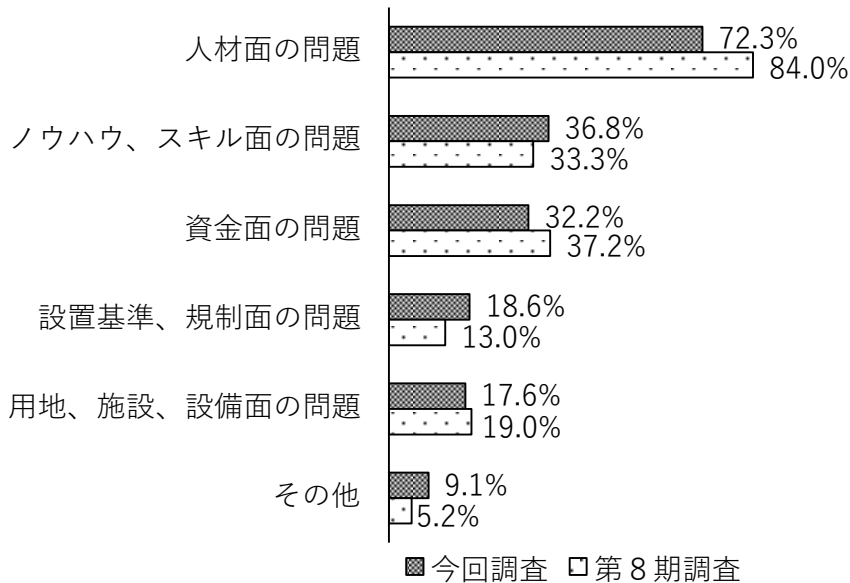
第8期調査と比較すると、「わからない」が3.4ポイント、「ニーズがないので参入しない」が3.1ポイント上昇しています。



問17 問15及び問16のサービスについて、参入を困難にしていることがあるとすれば何ですか。
(複数選択可) 【N=307、231(第8期調査)】

参入を困難にしていることがあるとすれば何かについては、「人材面の問題」が72.3%と突出して高く、次いで「ノウハウ、スキル面の問題」(36.8%)、「資金面の問題」(32.2%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「設置基準、規制面の問題」が5.6ポイント、「ノウハウ、スキル面の問題」が3.5ポイント上昇する一方、「人材面の問題」が11.7ポイント、「資金面の問題」が5.0ポイント低下しています。

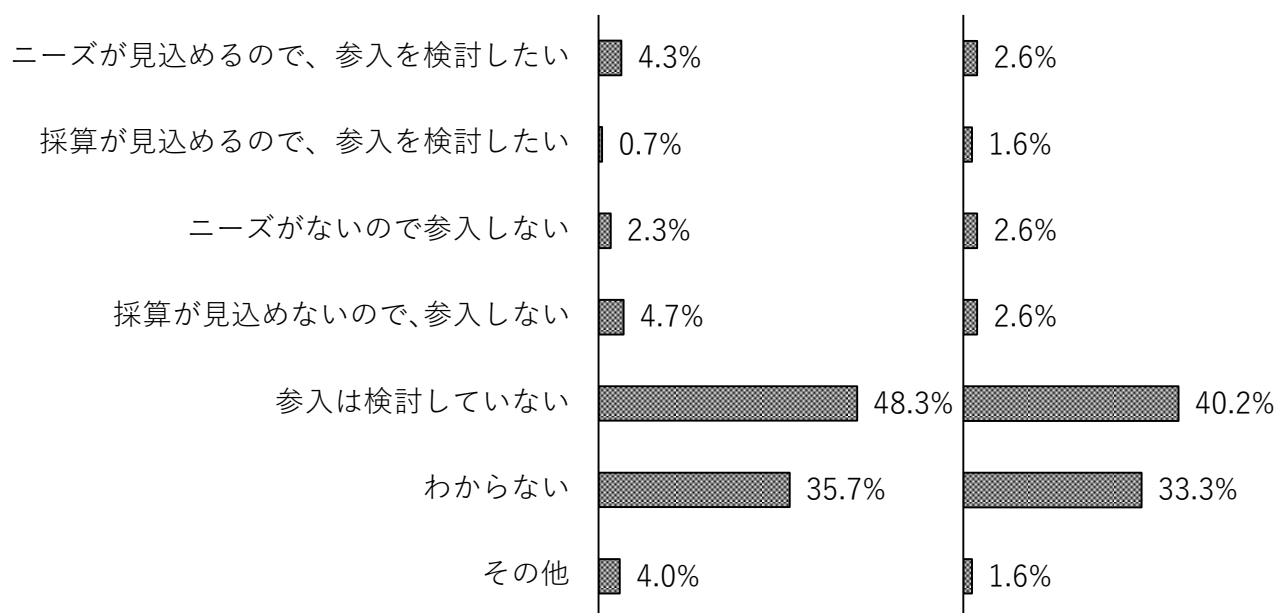


問18 介護予防・日常生活支援総合事業の人員等を緩和した基準による訪問型サービスや通所型サービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。
(訪問型と通所型それぞれ1つを選択)

介護予防・日常生活支援総合事業の人員等を緩和した基準による訪問型サービスへの参入については、「参入は検討していない」が48.3%を占めており、「ニーズが見込めるので、参入を検討したい」は4.3%、「採算が見込めるので、参入を検討したい」は0.7%となっています。

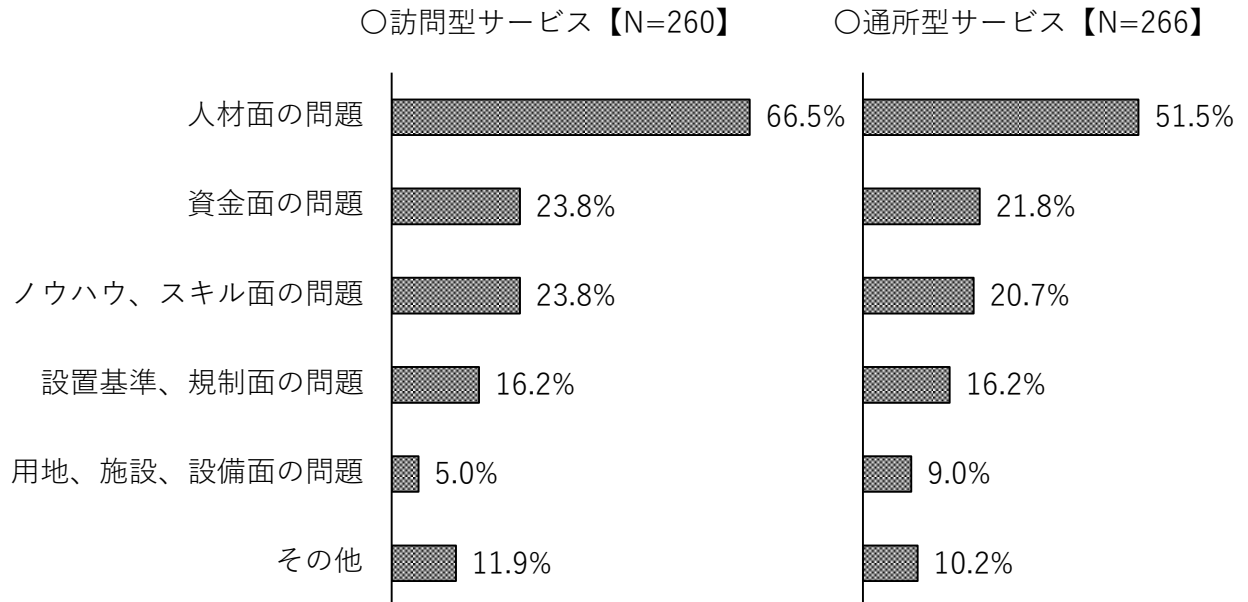
通所型サービスへの参入については、「参入は検討していない」が40.2%を占めており、「ニーズが見込めるので、参入を検討したい」は2.6%、「採算が見込めるので、参入を検討したい」は1.6%となっています。

○訪問型サービス【N=300】 ○通所型サービス【N=306】



問19 問18のサービスについて、参入を困難にしていることがあるとすれば何ですか。
(訪問型と通所型それぞれ複数選択可)

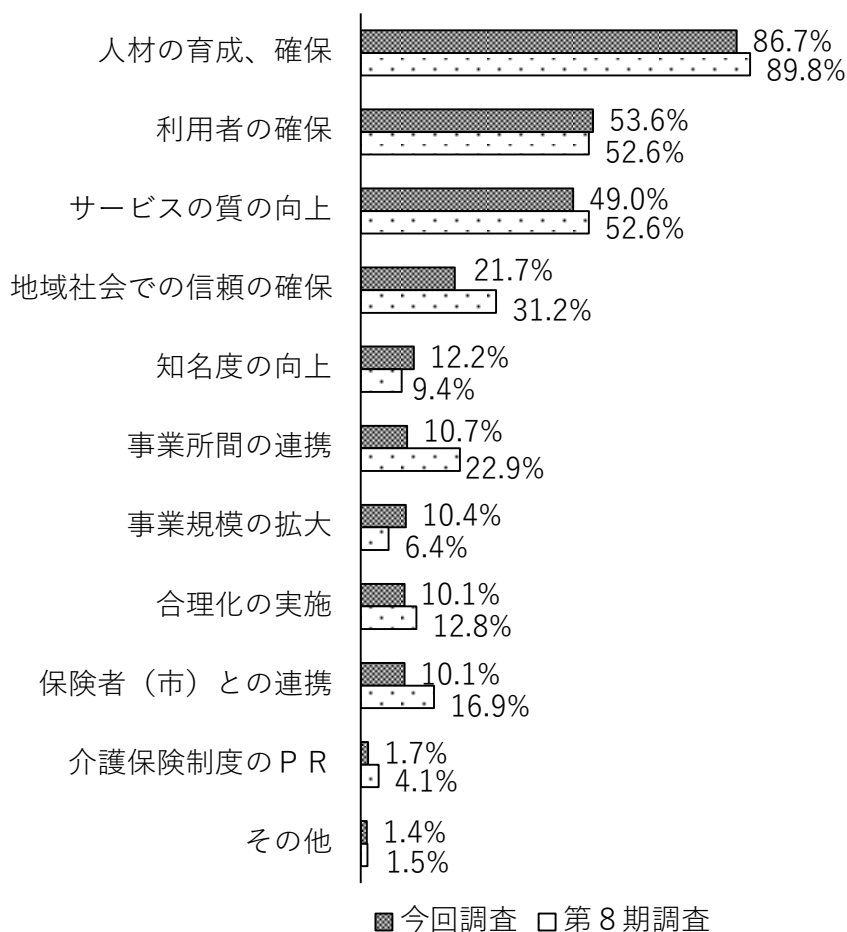
介護予防・日常生活支援総合事業の人員等を緩和した基準による訪問型サービスや通所型サービスへの参入を困難にしていることについては、どちらのサービスも「人材面の問題」が最も高く、次いで「資金面の問題」、「ノウハウ、スキル面の問題」と続いています。



問20 今後、事業を展開していく上での課題は何ですか。(複数選択可)【N=345、266(第8期調査)】

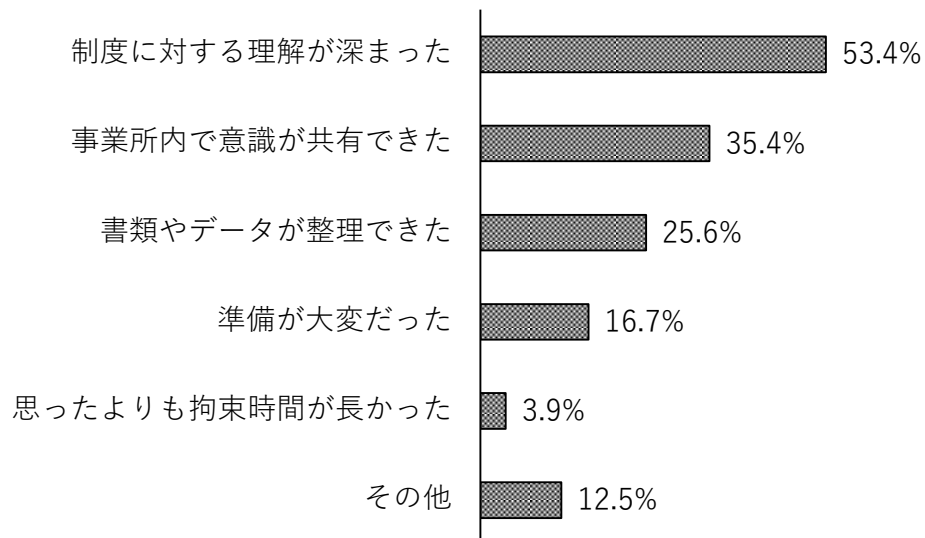
今後、事業を展開していく上での課題については、「人材の育成、確保」が86.7%と最も高く、次いで「利用者の確保」(53.6%)、「サービスの質の向上」(49.0%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「事業規模の拡大」が4.0ポイント、「知名度の向上」が2.8ポイント上昇しています。一方、「事業所間の連携」は12.2ポイント、「地域社会での信頼の確保」は9.5ポイント、「保険者(市)との連携」は6.8ポイント低下しています。



問21 運営指導について、どのように感じていますか。(複数選択可)【N=305】

運営指導については、「制度に対する理解が深まった」が53.4%と最も高く、次いで「事業所内で意識が共有できた」(35.4%)、「書類やデータが整理できた」(25.6%)と続いています。



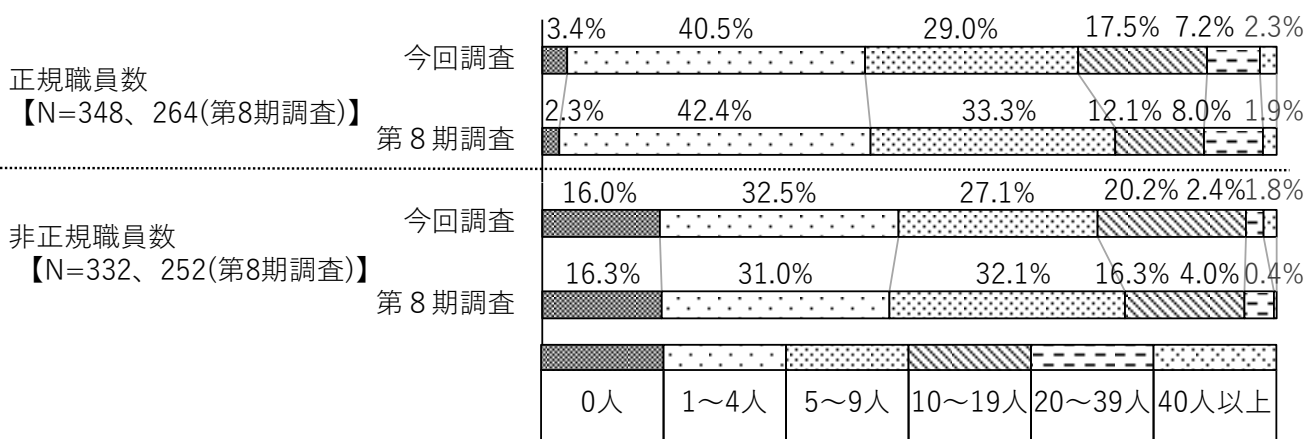
3 介護人材について

問22 貴事業所における介護職員の総数をお答えください。(数字を記入)

介護職員の正規職員数については、「1～4人」が40.5%と最も高く、次いで「5～9人」が29.0%と続いています。

非正規職員数については、「1～4人」が32.5%と最も高く、次いで「5～9人」が27.1%と続いています。

第8期調査と比較すると、正規職員数は「10～19人」が5.4ポイント、非正規職員数は3.9ポイント上昇しています。

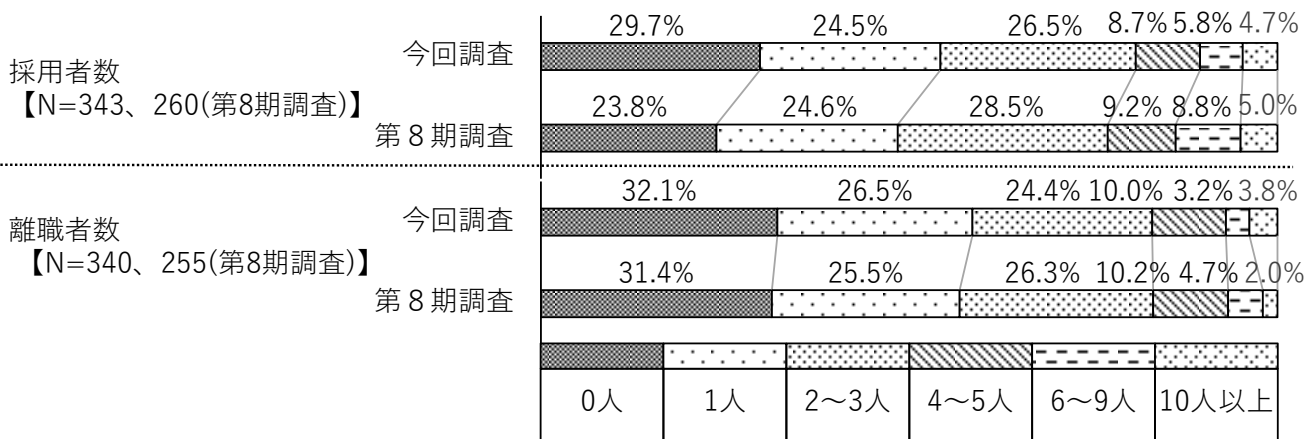


問23 過去1年間（令和3年11月1日～令和4年10月31日）の介護職員の採用者数と離職者数をお答えください。(数字を記入)

過去1年間の介護職員の採用者数については、採用がなかった「0人」が29.7%と最も高く、次いで「2～3人」(26.5%)、「1人」(24.5%)と続いています。

離職者数についても、離職者がなかった「0人」が32.1%と最も高く、次いで「1人」(26.5%)、「2～3人」(24.4%)と続いています。

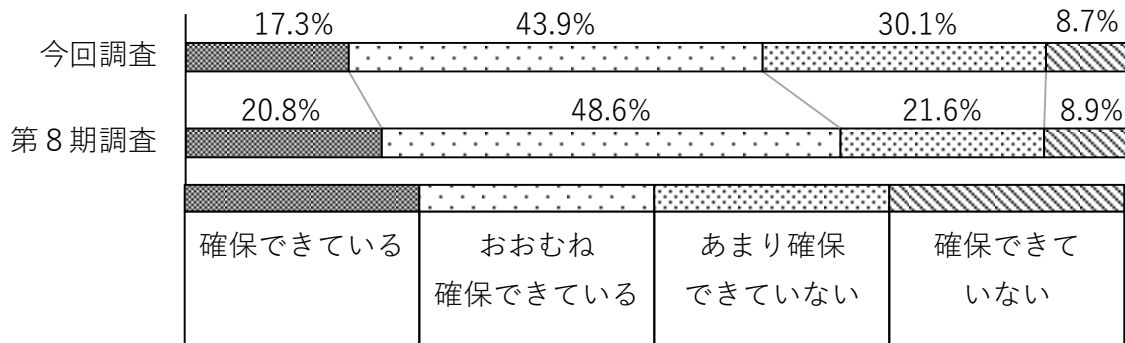
第8期調査と比較すると、採用者数については、採用がなかった「0人」が5.9ポイント上昇しています。一方、離職者数については、「10人以上」が1.8ポイント上昇しています。



問24 過去1年間（令和3年11月1日～令和4年10月31日）、貴事業所における介護人材の確保について、おおむねどのような状況ですか。（1つを選択）【N=346、259(第8期調査)】

過去1年間の介護人材の確保状況については、「おおむね確保できている」が43.9%と最も高く、「確保できている」(17.3%)を合わせると『確保できている』は61.2%を占めています。一方、「あまり確保できていない」(30.1%)と「確保できていない」(8.7%)を合わせた『確保できていない』は38.8%となっています。

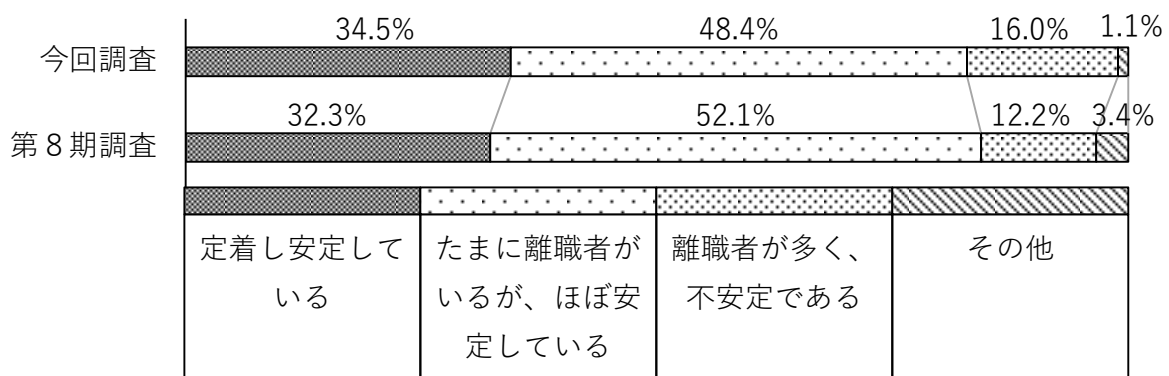
第8期調査と比較すると、「あまり確保できていない」が8.5ポイント上昇しています。



問25 過去1年間（令和3年11月1日～令和4年10月31日）、貴事業所における職員の定着について、おおむねどのような状況ですか。（1つを選択）【N=351、263(第8期調査)】

過去1年間の職員の定着状況については、「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」が48.4%を占めており、「定着し安定している」(34.5%)を合わせると『安定している』は82.9%を占めています。一方、「離職者が多く、不安定である」は16.0%となっています。

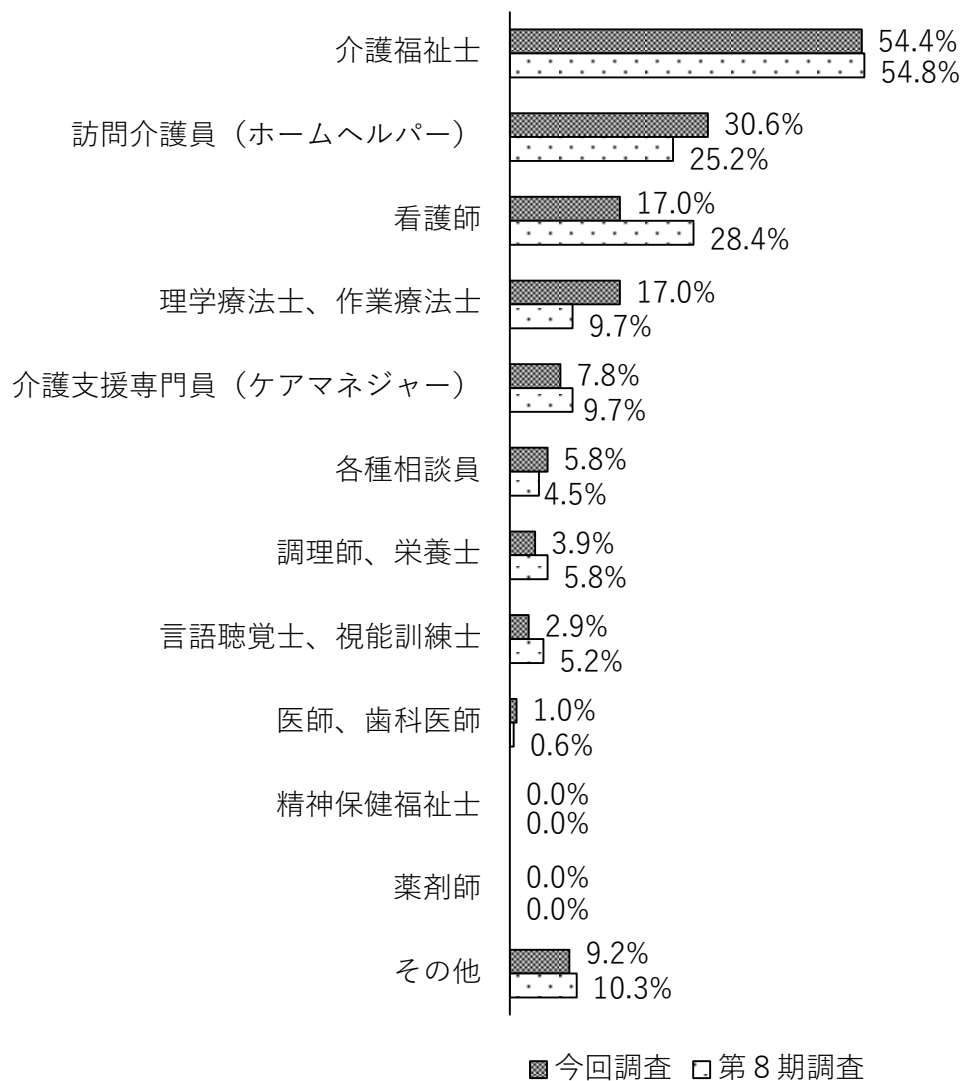
第8期調査と比較すると、「離職者が多く、不安定である」が3.8ポイント上昇しています。



問26 貴事業所においては、どの職種がどれくらい不足していますか。(当てはまるものに○を付け、不足する人数を常勤換算で〔 〕内に記入)【N=206、155(第8期調査)】

不足している職種については、「介護福祉士」が54.4%と最も高く、次いで「訪問介護員(ホームヘルパー)」(30.6%)、「看護師」「理学療法士、作業療法士」(17.0%)と続いています。

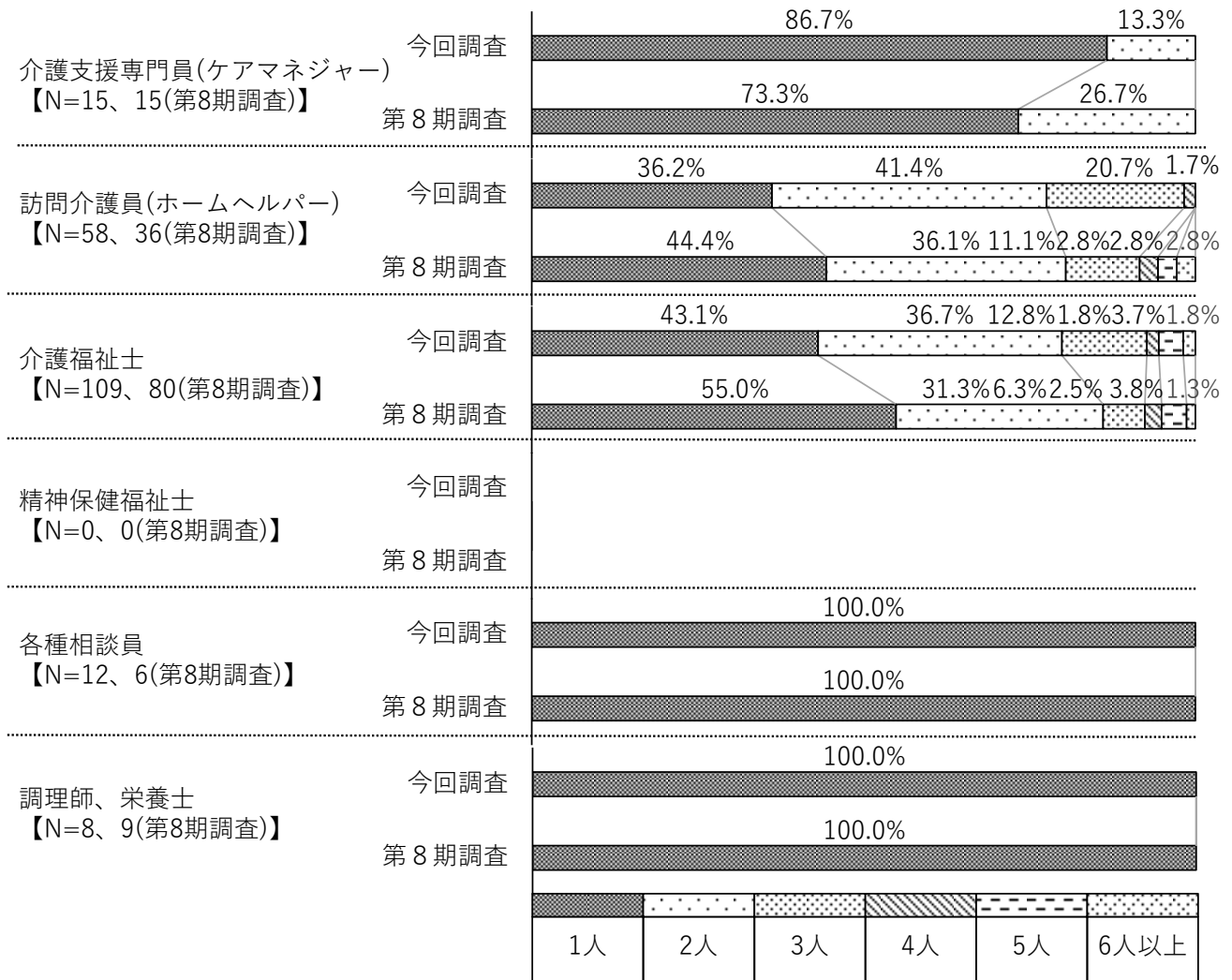
第8期調査と比較すると、「理学療法士、作業療法士」が7.3ポイント、「訪問介護員(ホームヘルパー)」が5.4ポイント上昇しています。一方、「看護師」は11.4ポイント低下しています。

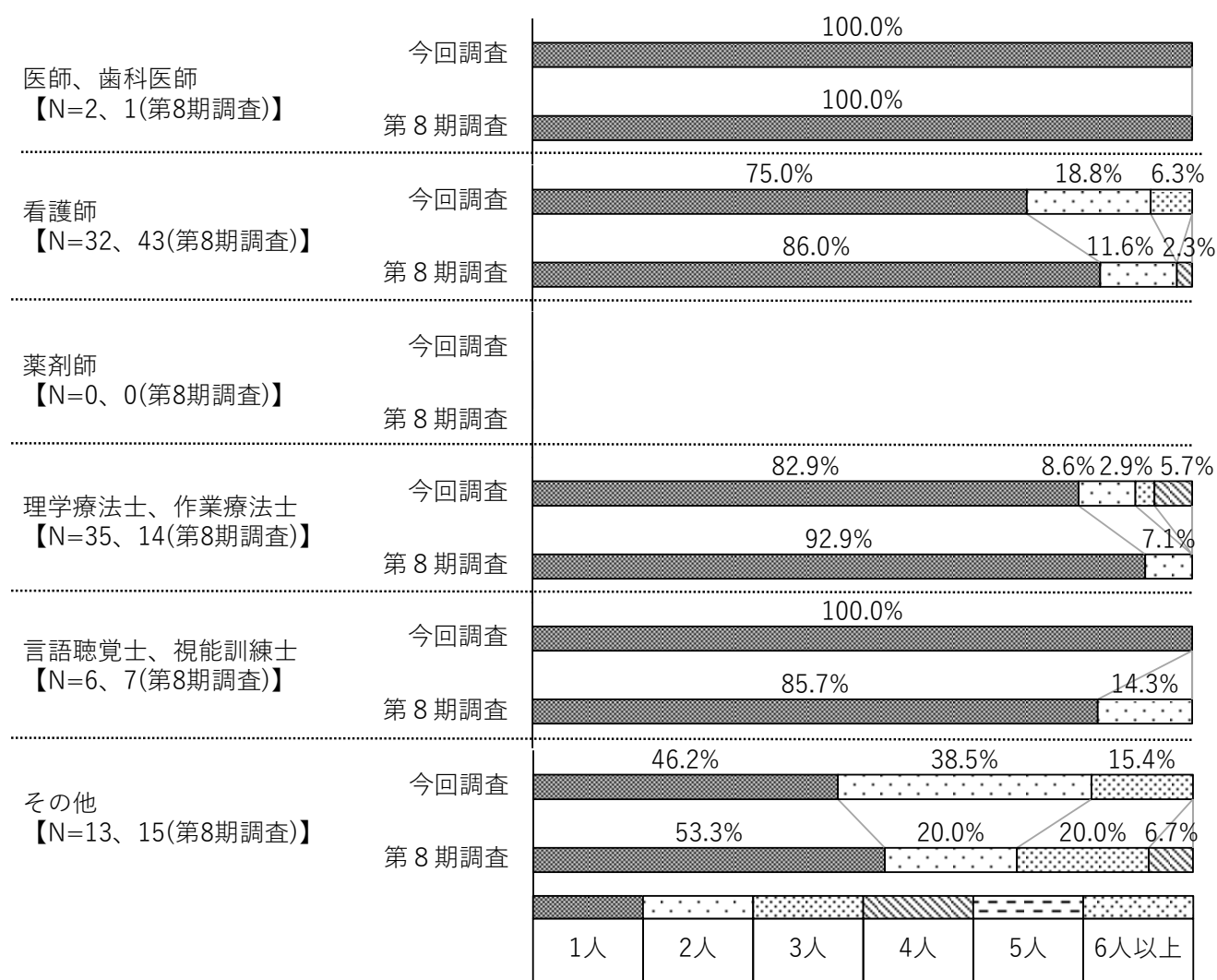


○職種別不足している人数

不足している人数については、「訪問介護員（ホームヘルパー）」は「2人」が41.4%と最も高くなっていますが、その他の職種は「1人」が最も高くなっています。また、「介護福祉士」では「2人」が36.7%あります。

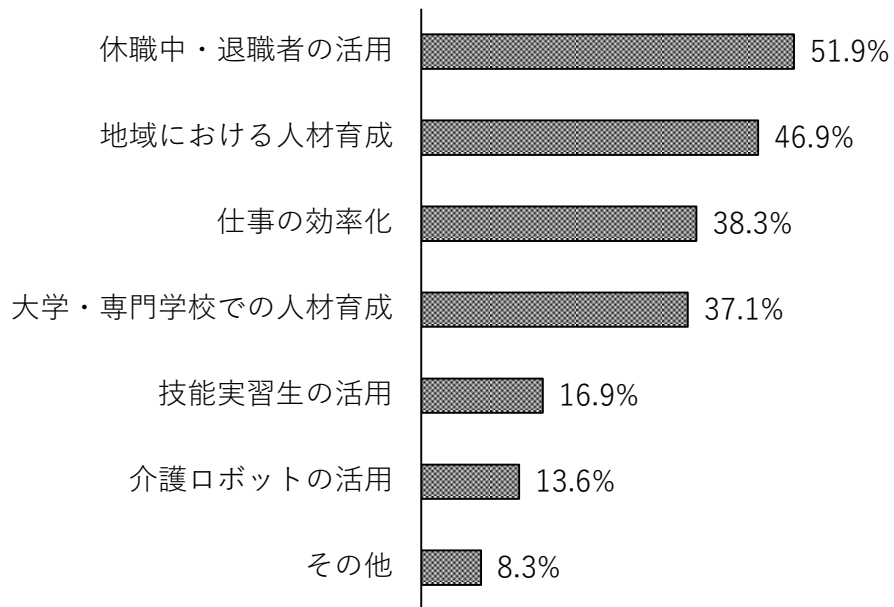
第8期調査と比較すると、「訪問介護員（ホームヘルパー）」「介護福祉士」「看護師」「理学療法士、作業療法士」などで「2～3人」の不足が増えています。また、「理学療法士、作業療法士」では「4人」の不足も増えています。





問27 介護人材の不足に対し、どのようなことが求められると思いますか。（複数選択可）【N=337】

介護人材の不足に対し何が求められるかについては、「休職中・退職者の活用」が51.9%と最も高く、次いで「地域における人材育成」(46.9%)、「仕事の効率化」(38.3%)、「大学・専門学校での人材育成」(37.1%)と続いています。



4 施設・居住系の事業所における入退居の状況について

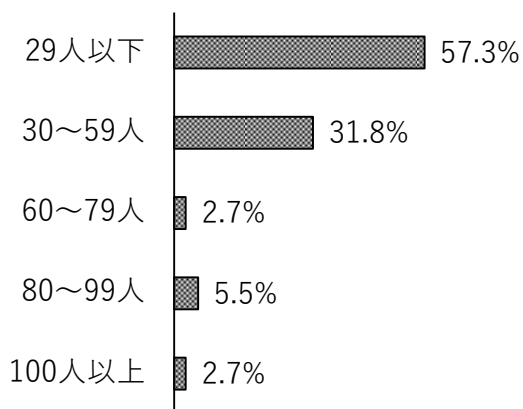
施設・居住系サービスを提供している事業所にお伺いします。

問28 貴事業所の令和4年11月1日現在の定員、入所・入居待ち人数と入所・入居状況をご記入ください。(数字を記入)

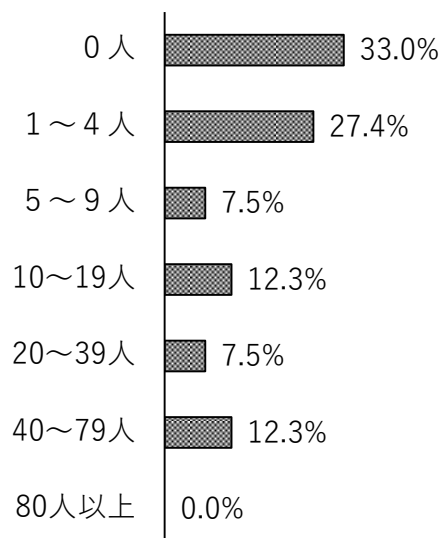
現在の定員については、「29人以下」が57.3%と最も高く、次いで「30～59人」(31.8%)と続いています。

現在の入所・入居待ち人数については、入所・入居待ち人数がない「0人」が33.0%と最も高く、次いで「1～4人」(27.4%)、「10～19人」「40～79人」(12.3%)と続いています。

○定員【N=110】

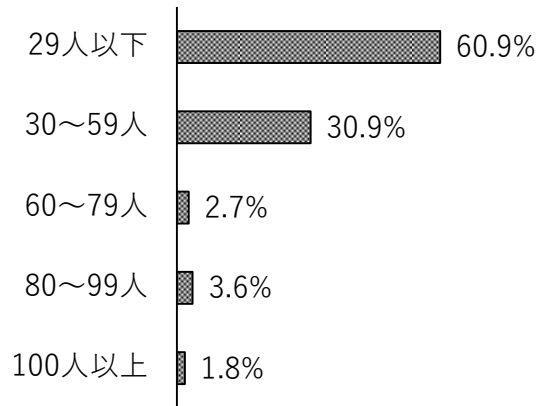


○入所・入居待ち人数【N=106】

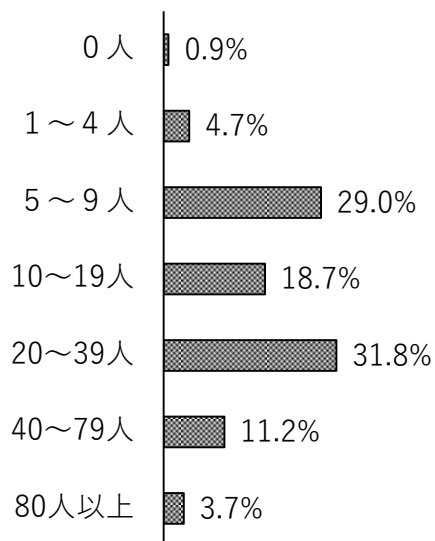


現在の入所・入居者数については、「29人以下」が60.9%と最も高く、次いで「30～59人」(30.9%)と続いています。そのうち、鈴鹿亀山地区広域連合管内の人数については、「20～39人」が31.8%と最も高く、次いで「5～9人」(29.0%)、「10～19人」(18.7%)と続いています。

○入所・入居者数【N=110】



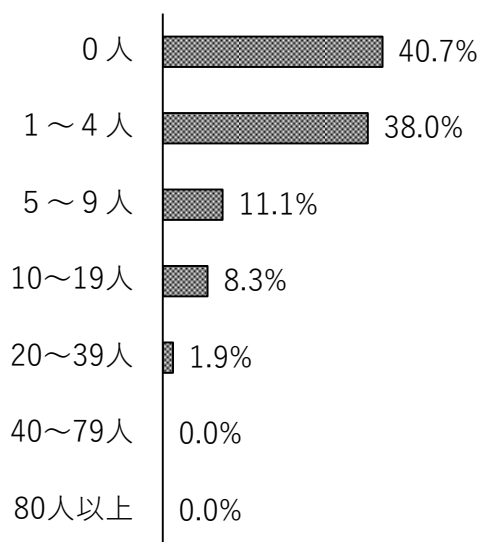
○うち、鈴鹿亀山地区広域連合管内の人数【N=107】



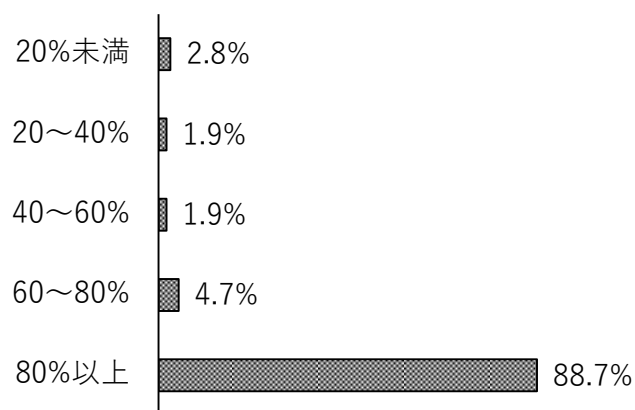
現在の空き状況については、空きがない「0人」が40.7%と最も高く、次いで「1～4人」(38.0%)と続いています。

また、現在の入所・入居者の鈴鹿亀山地区広域連合管内の人数割合については、「80%以上」が88.7%を占めています。

○空き状況【N=108】



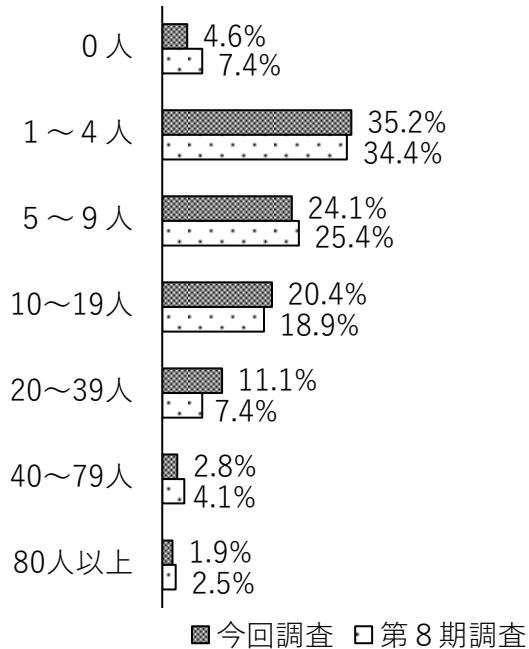
○鈴鹿亀山地区広域連合管内割合【N=106】



問29 過去1年間（令和3年11月1日～令和4年10月31日）に、貴事業所に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。【N=108、122(第8期調査)】

過去1年間に新規で入所・入居した人数については、「1～4人」が35.2%と最も高く、次いで「5～9人」(24.1%)、「10～19人」(20.4%)と続いています。

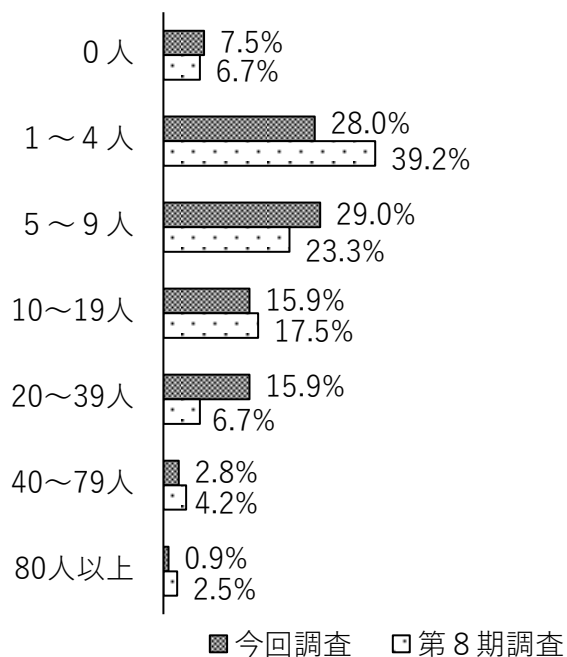
第8期調査と比較すると、「20～39人」が3.7ポイント上昇しています。



問30 過去1年間（令和3年11月1日～令和4年10月31日）に、貴事業所を退去した人の人数をご記入ください。【N=107、120(第8期調査)】

過去1年間に退居した人数については、「5～9人」が29.0%と最も高く、次いで「1～4人」(28.0%)、「10～19人」「20～39人」(15.9%)と続いています。

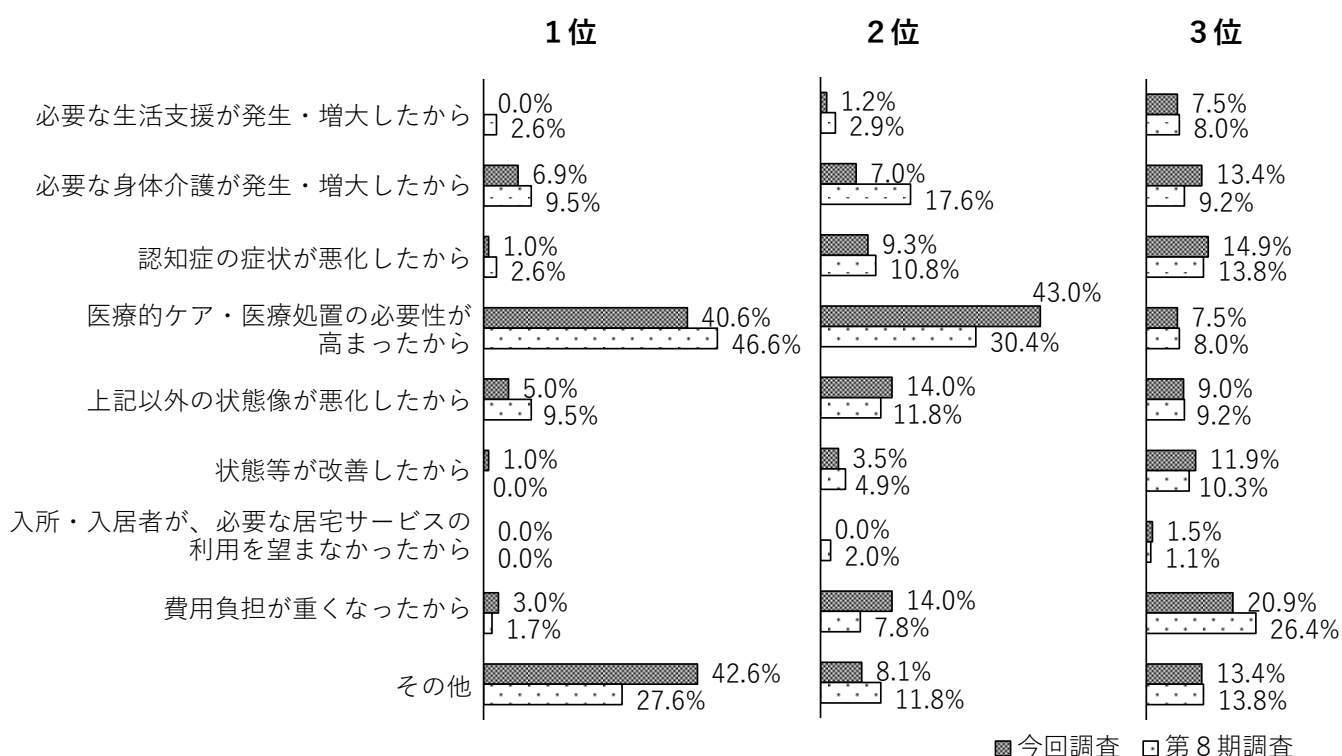
第8期調査と比較すると、「20～39人」が9.2ポイント上昇しています。



問31 貴事業所の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んで、該当する□に✓を付けてください。

入居・入所者が、退去する理由については、1位は「その他」が42.6%と最も高く、次いで「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が40.6%と続いています。2位は「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が43.0%と最も高くなっています。3位は「費用負担が重くなったから」が20.9%と最も高くなっています。なお、「その他」の内容は、大半が「死亡のため」という回答でした。

第8期調査と比較すると、第1位の「その他」は15.0ポイント、第2位の「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」は12.6ポイント、第3位の「必要な身体介護が発生・増大したから」は4.2ポイント上昇しています。



1位 【N=101、116(第8期調査)】

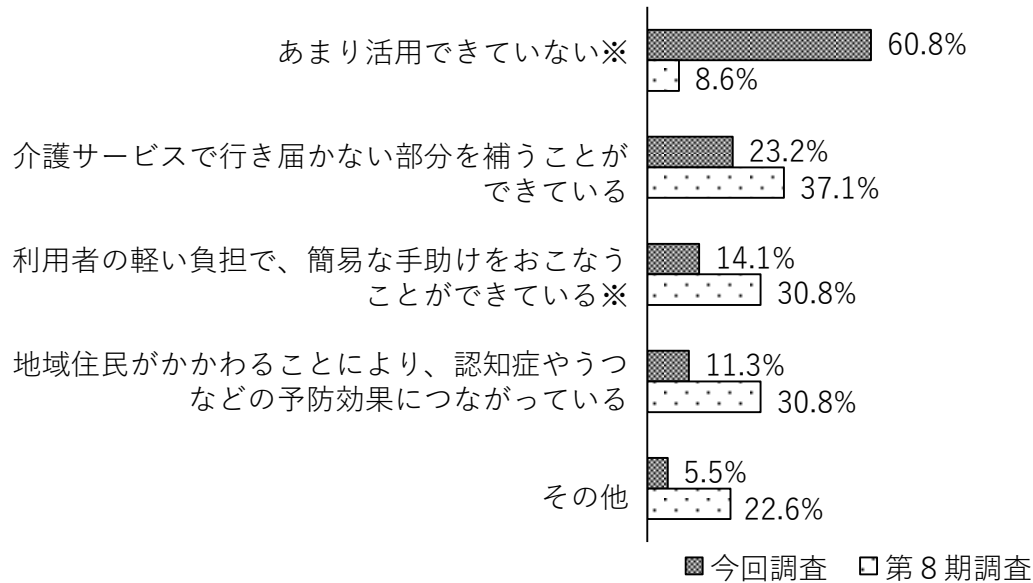
2位 【N=86、102(第8期調査)】

3位 【N=67、87(第8期調査)】

5 生活支援サービスについて

問32 介護予防・日常生活支援総合事業におけるボランティアやNPOによる介護や生活支援サービスについて、どのように評価されていますか。(複数選択可)【N=311、221(第8期調査)】

介護予防・日常生活支援総合事業におけるボランティアやNPOによる介護や生活支援サービスへの評価については、「あまり活用できていない」が60.8%と最も高く、次いで「介護サービスで行き届かない部分を補うことができる」(23.2%)、「利用者の軽い負担で、簡易な手助けをおこなうことができる」(14.1%)と続いています。



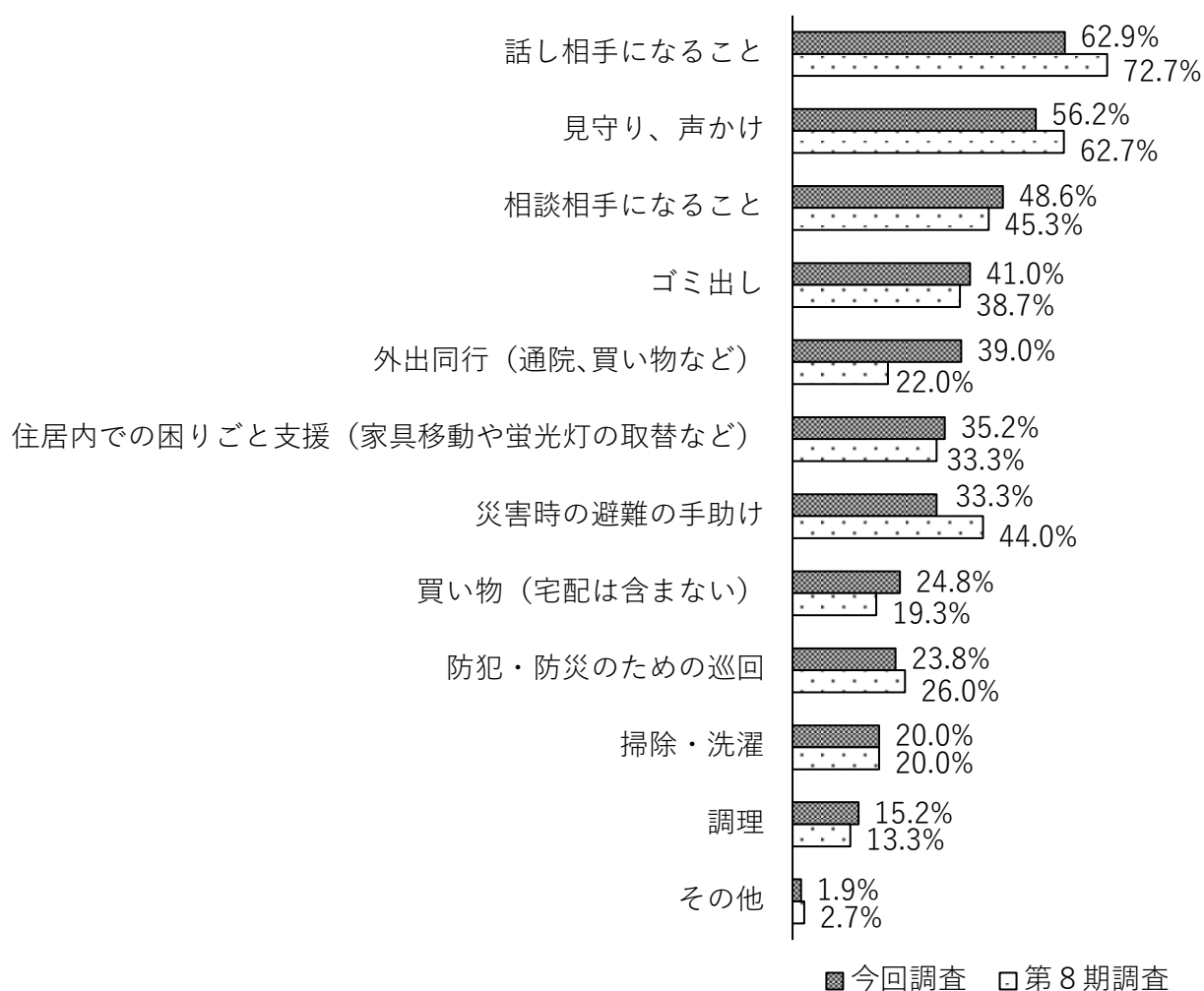
※第8期調査：「あまり評価していない」「利用者の負担無しに、簡易な手助けをおこなうことができる」

問32で「介護サービスで行き届かない部分を補うことができる」「利用者の軽い負担で、簡易な手助けをおこなうことができる」「地域住民がかかわることにより、認知症やうつなどの予防効果につながっている」と回答した事業所にお伺いします。

問32-② ボランティアやNPOは、具体的にどのような手助けをすることが有効だと思いますか。(複数選択可)【N=105、150(第8期調査)】

ボランティアやNPOによる有効な手助けについては、「話し相手になること」が62.9%と最も高く、次いで「見守り、声かけ」(56.2%)、「相談相手になること」(48.6%)と続いています。

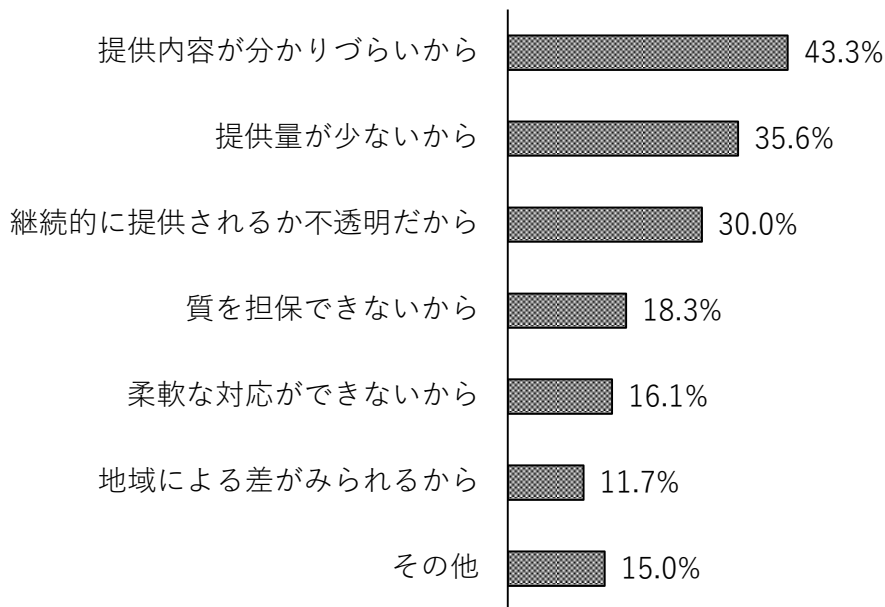
第8期調査と比較すると、「外出同行(通院、買い物など)」が17.0ポイント、「買い物(宅配は含まない)」が5.5ポイント上昇する一方、「災害時の避難の手助け」は10.7ポイント、「話し相手になること」は9.8ポイント低下しています。



問32で「あまり活用できていない」と回答した事業所にお伺いします。

問32－③ その理由は何ですか。（複数選択可）【N=180】

あまり活用できていないと評価する理由については、「提供内容が分かりづらいから」が43.3%と最も高く、次いで「提供量が少ないから」(35.6%)、「継続的に提供されるか不透明だから」(30.0%)と続いています。



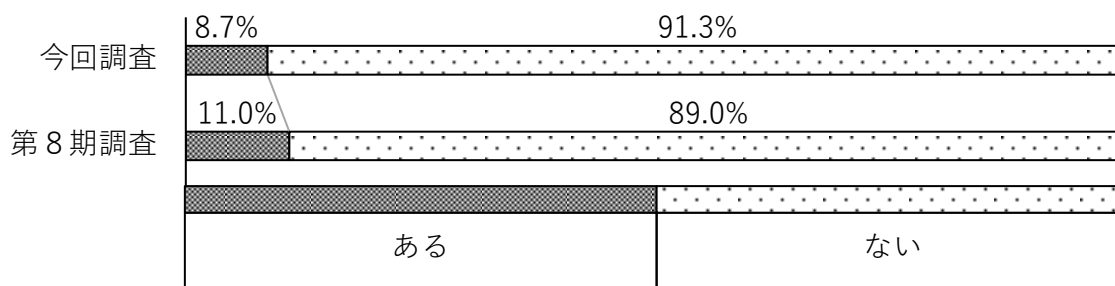
6 権利擁護について

問33 過去1年間（令和3年11月1日～令和4年10月31日）に、家族介護者等による虐待が疑われるケースにかかわったことがありますか。「ある」に○をつけた方は、〔 〕内にその件数を記入してください。【N=322、236(第8期調査)】

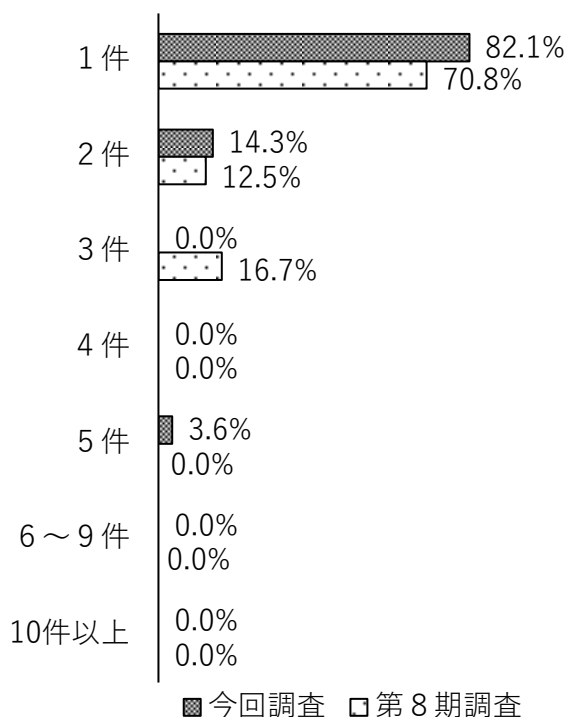
過去1年間に家族介護者等による虐待が疑われるケースにかかわったことについては、「ある」が8.7%、「ない」が91.3%となっています。

ある場合の件数については、「1件」が82.1%と突出して高くなっています。

第8期調査と比較すると、「ない」が2.3ポイント上昇しています。



○ある場合の件数 【N=28、24(第8期調査)】



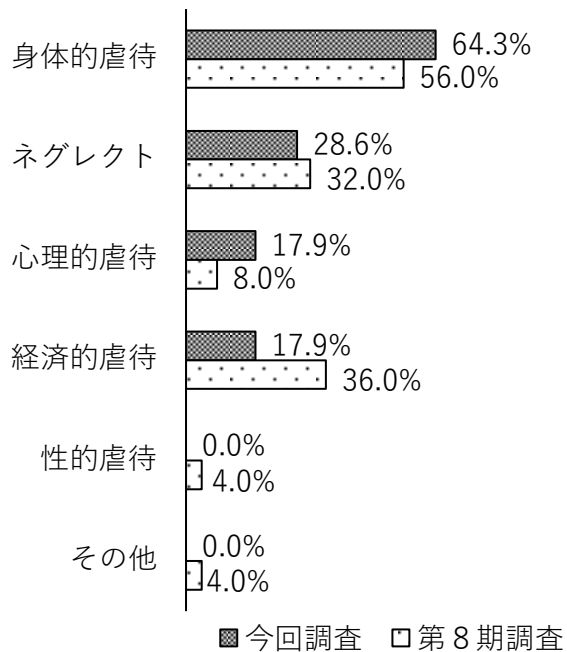
問33で「ある」と回答した事業所にお伺いします。

問33－② 貴事業所でかかわった虐待の疑われるケースは、次の分類で何件ずつになりますか。
あてはまる分類すべてに○をつけ、件数を記入してください。【N=28、25(第8期調査)】

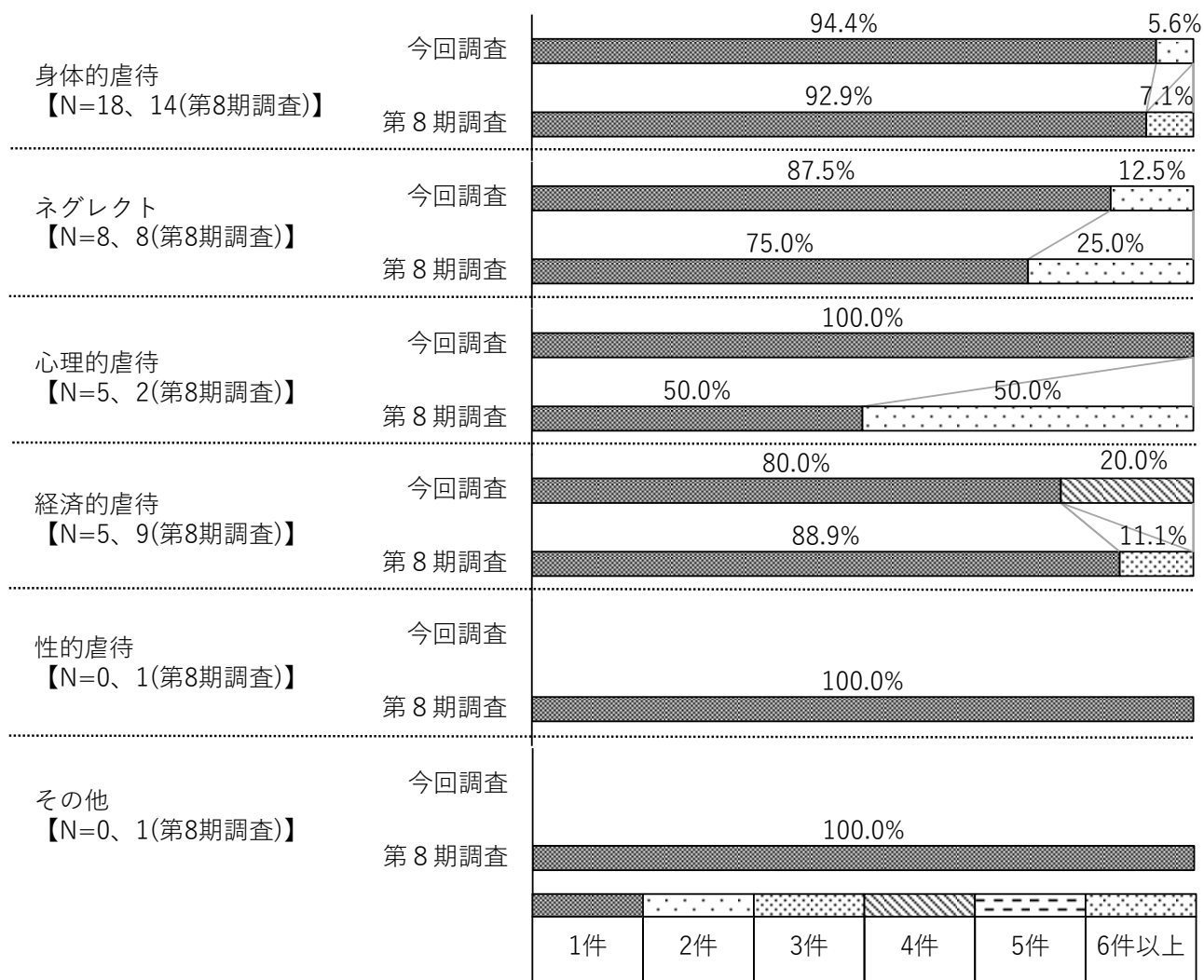
かかわった虐待の疑われるケースの分類については、「身体的虐待」が64.3%と最も高く、次いで「ネグレクト」(28.6%)、「心理的虐待」「経済的虐待」(17.9%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「心理的虐待」が9.9ポイント、「身体的虐待」が8.3ポイント上昇する一方、「経済的虐待」は18.1ポイント低下しています。

分類別の件数については、いずれも「1件」が最も高くなっています。また、「経済的虐待」では「4件」が20.0%となっています。



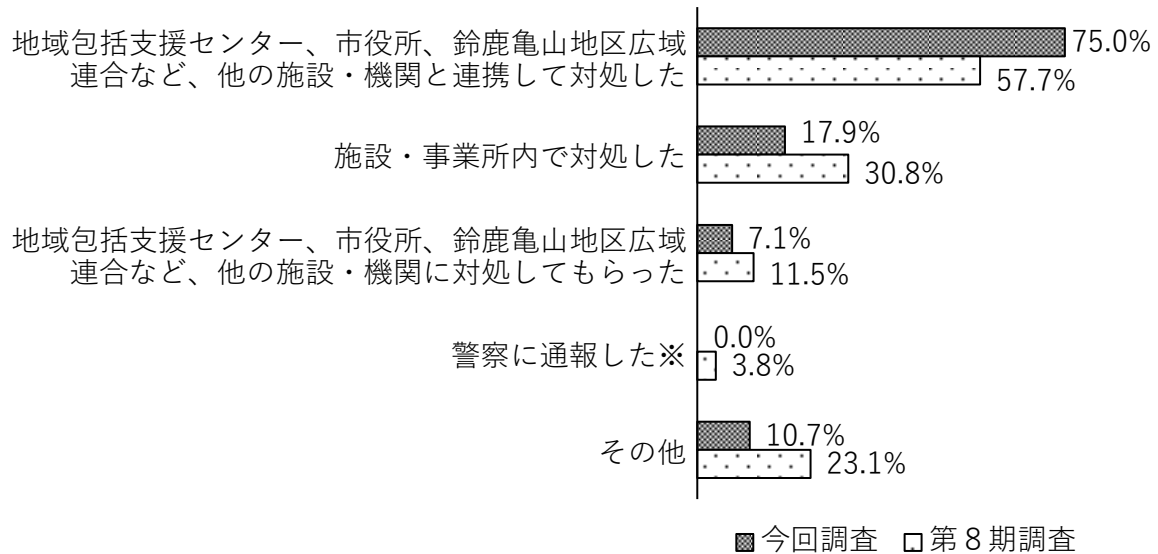
○分類別件数



問33-③ 貴事業所が虐待の疑われる事例にかかわったときに、どのような方法で対処しましたか。（複数選択可）【N=28、26(第8期調査)】

虐待の疑われる事例にかかわったときの対処方法については、「地域包括支援センター、市役所、鈴鹿亀山地区広域連合など、他の施設・機関と連携して対処した」が75.0%と最も高く、次いで「施設・事業所内で対処した」が17.9%と続いています。

第8期調査と比較すると、「地域包括支援センター、市役所、鈴鹿亀山地区広域連合など、他の施設・機関と連携して対処した」が17.3ポイント上昇しています。



※第8期調査：「通報した」

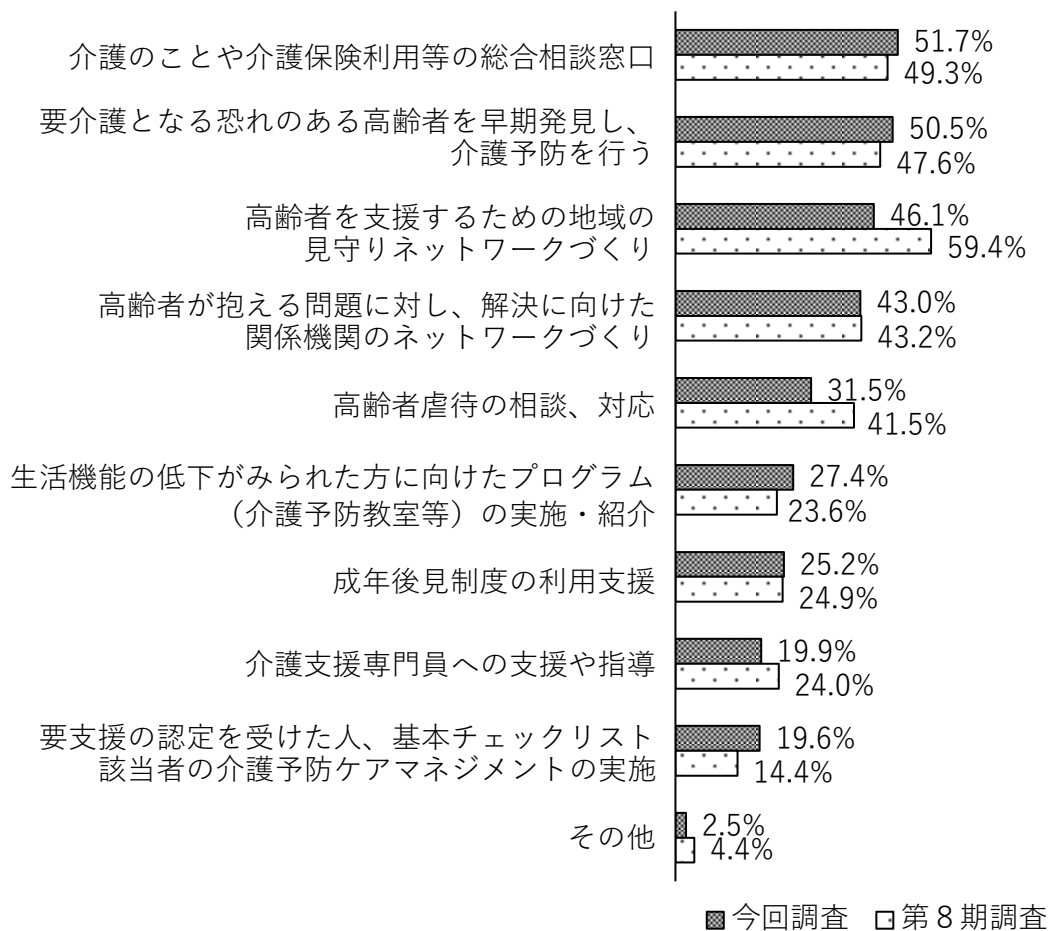
7 地域包括ケアについて

問34 地域包括支援センターの機能のうち、充実を望むものはどれですか。（複数選択可）

【N=321、229(第8期調査)】

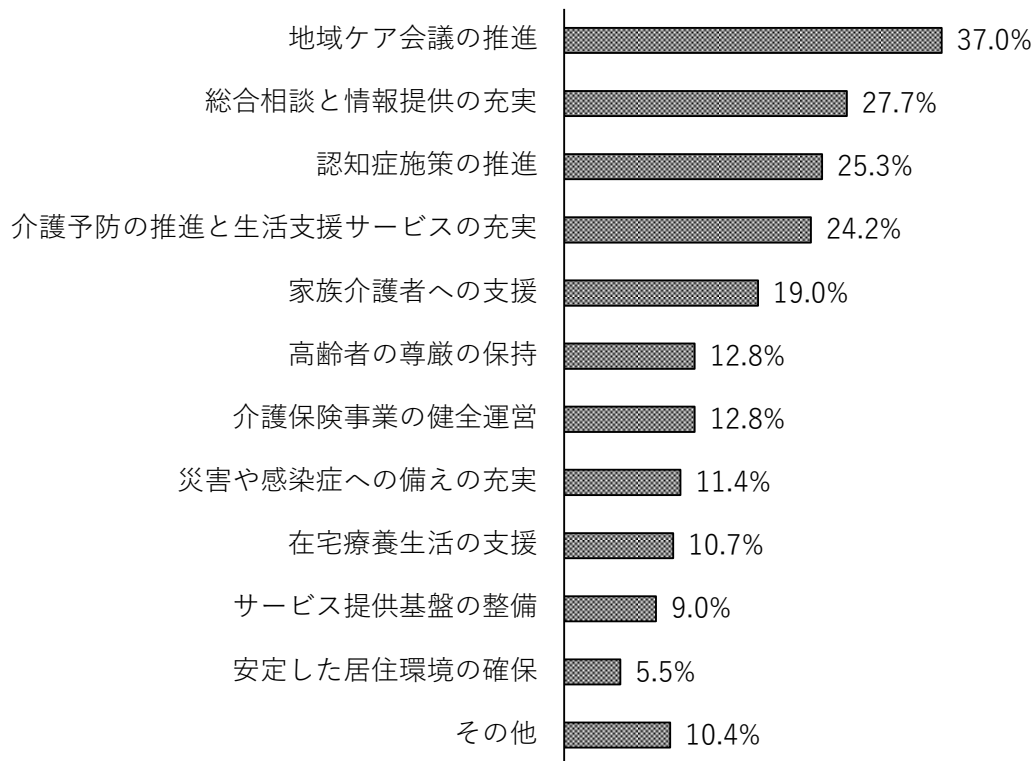
地域包括支援センターの機能のうち、充実を望むものについては、「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」が51.7%と最も高く、次いで「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」(50.5%)、「高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくり」(46.1%)、「高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくり」(43.0%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」「生活機能の低下がみられた方（要介護認定の非該当者、基本チェックリスト該当者等）に向けたプログラム（介護予防教室等）の実施・紹介」「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」などは2～5ポイント程度上昇しています。一方、「高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくり」は13.3ポイント、「高齢者虐待の相談、対応」は10.0ポイント低下しています。



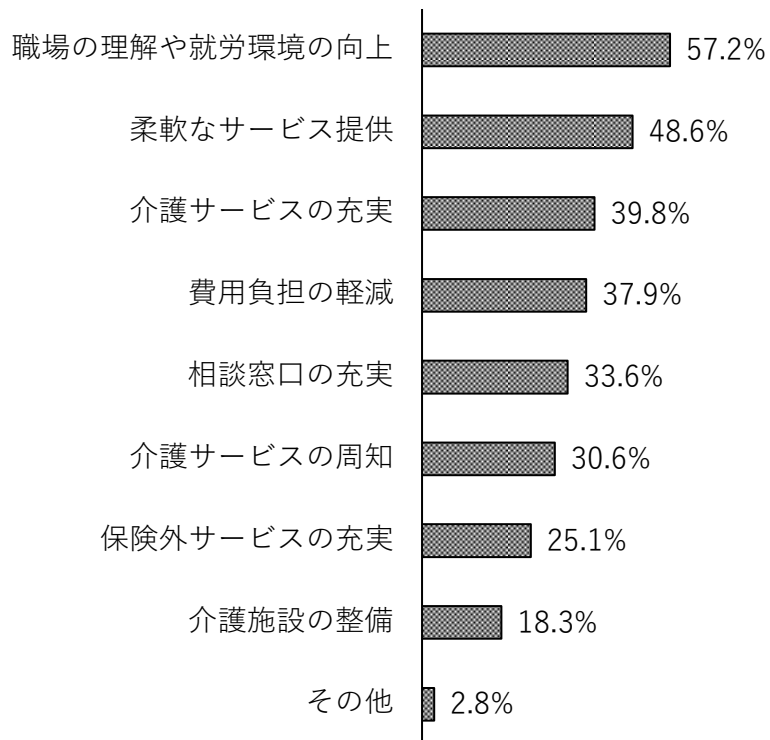
問35 鈴鹿亀山地区においては「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向けて、さまざまな取組を進めていますが、どのような点で取組が進んでいると思いますか。（複数選択可）【N=289】

鈴鹿亀山地区における「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向けて、どのような取組が進んでいると思うかについては、「地域ケア会議の推進」が37.0%と最も高く、次いで「総合相談と情報提供の充実」(27.7%)、「認知症施策の推進」(25.3%)、「介護予防と生活支援サービスの充実」(24.2%)と続いています。



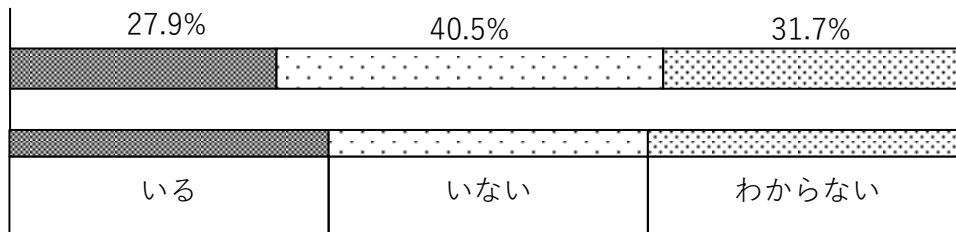
問36 家族の介護を理由とする離職者を減らすには、どんなことが必要だと思いますか。
(複数選択可) 【N=327】

家族の介護を理由とする離職者を減らすために必要なことについては、「職場の理解や就労環境の向上」が57.2%と最も高く、次いで「柔軟なサービス提供」(48.6%)、「介護サービスの充実」(39.8%)、「費用負担の軽減」(37.9%)と続いています。



問37 利用者のご家族の中で、サービスを利用しているにも関わらず介護負担が軽減されていないと思われる人はいますか。（1つを選択）【N=341】

サービスを利用しているにも関わらず介護負担が軽減されていないと思われる人の有無については、「いる」が約3割(27.9%)を占めています。一方、「いない」は40.5%となっています。



問37で「いる」と回答した事業所にお伺いします。

問37-② 介護負担が軽減されていないのは、主にどんなことが原因だと思いますか。
（複数選択可）【N=95】

介護負担が軽減されていない主な原因については、「認知症の対応が負担になっている」が54.7%と最も高く、次いで「利用限度額に至っている」(52.6%)、「休日・夜間などの介護が負担になっている」(47.4%)と続いています。

